

訂 改

特54-930



\*1200901235875\*

國定小學地理歷史表解

普通學講習會著

高年  
二學

大阪

田中榮堂發行



地理研究會著作

# 改訂 增補 小學地理附圖

(大形) 尋常科用一冊  
高等科用一冊  
特價各廿七錢  
郵送料各六錢

文部省で出來た小學地理附圖は、極めて簡單にしてありますから、教科書にあることより外の事を見やうとすれば、たちまち差支ます「ア、もう少し詳ければよいなあ」といふ人が非常に多い。また實際地圖はどの家にも是非なくてはならぬ本です。そこで此地圖は(一)本を大形として大いに詳しく(二)百數十個の名勝寫真板を入れて、居ながら各地の風景を見(三)最も新しい諸種の統計表を添てありますから、眞に地理を研究せうとする諸君は元より、中等の學校に入ものも是非備置べき最良の地圖であります。そこで文部省の地理附圖をお買になつた人でも、なほ此地圖を用意せられたならば、勉學上の便益も、すこぶる大なることと信じます。

普通學講習會著

高等科  
第二學年用

# 國定 小學地理歴史表解

大阪 田中 宋榮堂發行

44. 3. 7

内交

普通學講習會著作

# 國定 小學理科附圖

尋常五學年用  
尋常六學年用  
定價各拾五錢  
郵送料各四錢

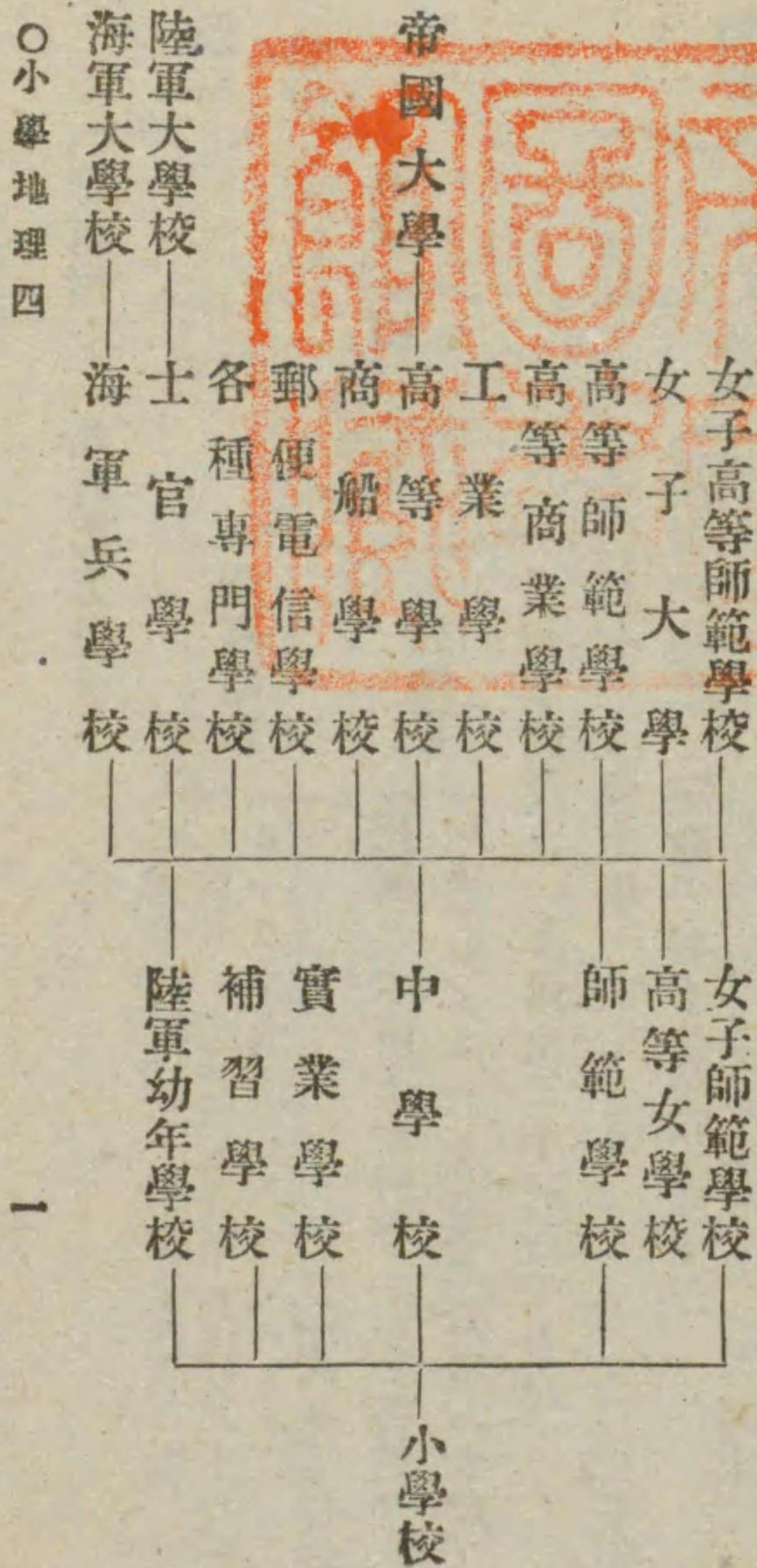
諸君がお習ひなさる理科書の繪は、みな墨繪ではありませんか。墨繪では其物の本當の有様を見るのに、不便であることは分りきつたことであります。そこで、本當のものゝ様に彩色したものがあつたならば、どれだけ面白うて、どれだけ便利で、どんなに利益を得られるでせうか。

この小學理科附圖は、一々實物について丁寧に研究し、それが大層美しい彩色繪としてありますから、理科を習ふ上に、便利で面白いのはもとより圖畫のけいこの手本としてもよい程です。それですから、墨繪のものとは迎も比較物になりません。又學業に熱心な諸君は、裏にある筆記欄に、習うたことを書入て、どれだけ知識が儲になるかをためして御覽なさい。

## 小學地理表解

普通學講習會著作

## 學 校 系 統



○小學地理四

# 總

## 陸地

總面積——九百萬方里。

高低一樣ならず

### 最高地點

パプア島——ヘルキョールス山  
(三萬二千七百八十尺)  
ヒマラヤ山頂——エベレスト山  
(二萬九千尺)

### 最低地點

死海の水面——水面下一千三百尺  
シヨーナノル——水面下三百六十尺

平均の高度——海面上二千三百三十尺

## 海洋

總面積——二千四百七十五萬方里。

高低の變化、陸地の如く急激ならず。

### 海底の高低

#### 最深所

ニュージブラントの北方——トンガ海床 三萬九百尺  
カリーマト島の東方——海床 二萬七千九百尺  
日本の東北——タスカロラ海床 二萬七千九百尺

淺所——大西洋の中央南北に亘れる一帯の淺瀬。平均の深さ九千六百尺。

# 論

## 水陸の分布

### 陸地

北半球に多くして、南半球に少し。  
東半球に多くして、西半球に少し。  
大陸——半島——島嶼——岬角。

### 海洋

南半球に多くして、北半球に少し。  
西半球に多くして、東半球に少し。  
大洋——海——灣——海峡——湖。

### 海陸の面積比較

陸——一〇〇〇  
海——二七五〇

即、海は陸の二、七五倍

## 自然の影響

### 氣界の變化

### 水陸の交錯

氣温の高低  
雨雪の多少  
土地の肥瘠

生物の分布  
(各地特有の生物)

### 人類に及す影響

文野——強弱——政治——産業  
風俗——習慣——言語——体格

山脈の成立

地球の成因

もと非常に熱き大瓦斯團。次第に冷却——凝固——地殻を生ず。

山脈の成立

地殻の皺——高所——山脈。低所——海洋。

地形の變化——地震、火山、風雨の侵蝕、生物の作用、流水の作用。

山と人生

利益——材木、薪炭、鳥獸、鑛物、水源、風景。害——交通の妨害、人情風俗の懸隔、文化の障害。

山脈の集合地

本州中央部——土地一般に高し——飛驒信濃地方

- 乗鞍岳(一〇五六〇尺) 御岳(一〇五一一)
- 高山 赤石山(一〇二〇六) 鎗岳(一〇二〇三)
- 白根山(一〇三九五) 大天井嶽(一〇五二〇)

山

我が國の山脈

中央より

- 東北に走るもの
  - 奥羽海岸山脈——北上山脈——阿武隈山脈
  - 奥羽中央山脈——岩手山(六八〇〇)
  - 奥羽西岸山脈——吾妻山(六七〇〇)
  - 岩木山(五〇〇〇)
  - 鳥海山(六八〇〇)
- 西に走るもの
  - 中國山脈——白山(八七〇〇)
  - 大白山(五六五〇)
  - 赤石山(一〇二〇六)
  - 劔石山(七四〇〇)

北海道の山脈

蝦夷山脈——南北に貫くもの。ヌタクカムウシユメ(七七〇〇)、駒ヶ岳、樽前山、千島火山脈——マツカリ岳

臺灣の山脈

臺灣山脈——新高山(一四三〇〇)、雪山(八三〇〇)

樺太の山脈

東部樺太山脈——片岡半島となる。南部樺太山脈——南半島の脊骨。

琉球列島をなせるもの——霧島火山脈。小笠原列島をなせるもの——富士火山脈。

脈

世界の

アジヤの山脈

山脈の集合地——パミル高原——世界の屋根

パミル高原より

東南——ヒマラヤ山脈

エベレスト(二九〇〇〇)

東——崑崙山脈

東北——天山山脈

アルタイ山脈

西南——ヒンヅークシ山脈

六

ヨーロッパの山脈

山脈の集合地——アルプ山脈

モンブラン(二五八七〇)

アルプ山脈より

東——カルパチヤ山脈

バルカン山脈

南——アペニン山脈

ウラル山脈——アジヤ洲との境界

スカンデナヴィヤ山脈。ピレネー山脈

山脈

北アメリカの山脈

西岸——ロッキーマウンテン

長さ四千哩

高山——ポポカテペトル(二七七八四)

東岸——アレガニー山脈——低し。(二六七五〇)

西岸——アンデス山脈

長さ四千五百哩——世界第一の長山脈

幅の廣き所四百哩

最高山——アコンカグア(二三三六六)

東岸——ブラジルの山脈

北岸——タマカマク山脈

海岸に沿ひて、ほとんど全洲を一周す。

最大の山脈——西北部のアトラス山脈

東岸山脈——ブルブル山(七三〇〇)

西岸山脈——五千尺以下

世界の最高山。三二二七八八呎

# 火

## 火山

成因——地殻—縫の弱所より、内部の瓦斯、熔岩の迸り出るもの  
 形状——孤立して圓錐狀——頂上に噴火口——麓に裾野。

### 種類

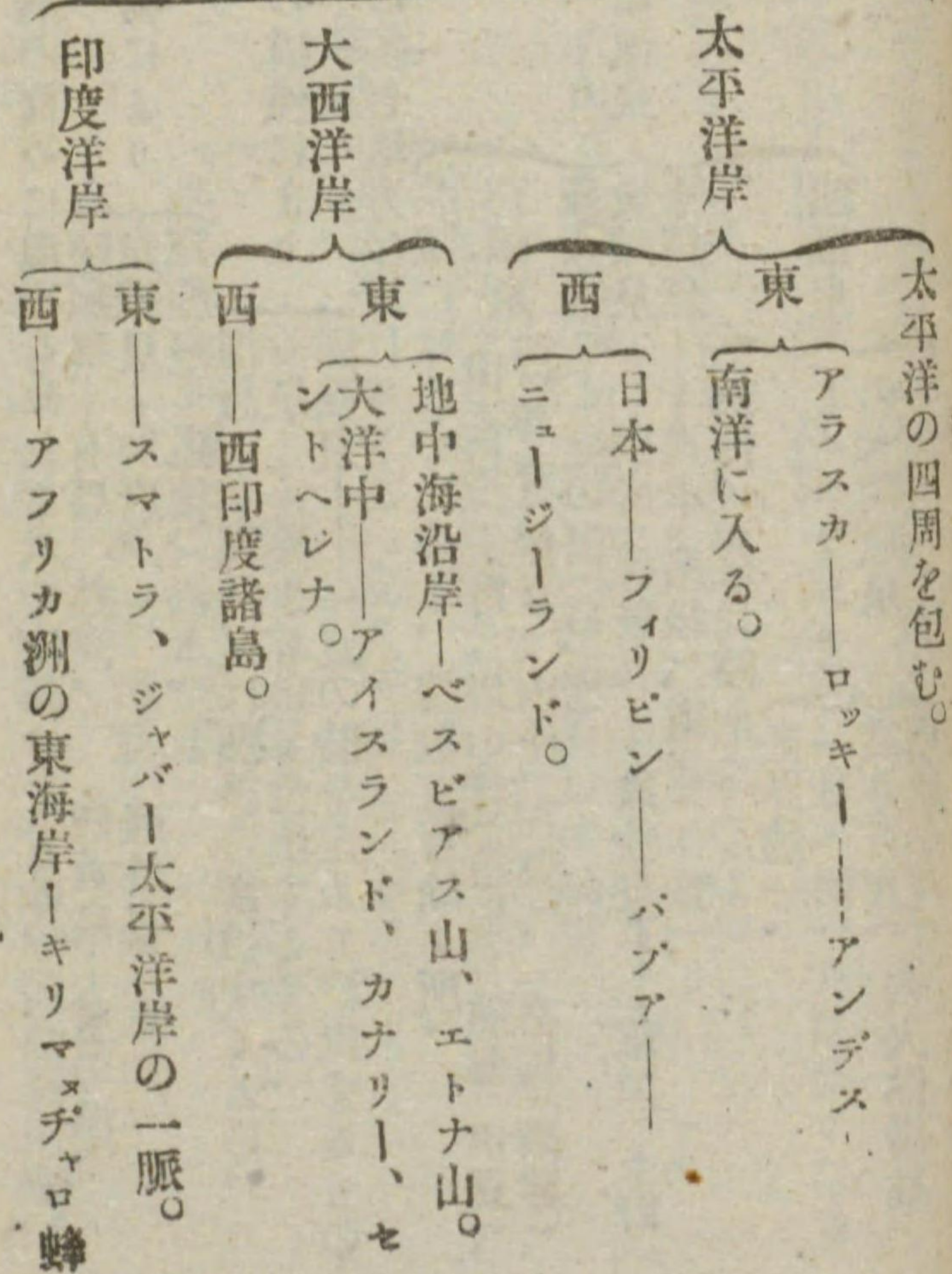
活火山——現今噴出しつゝあるもの。  
 休眠火山——現今噴出を休みをるもの。  
 死火山——全く噴出を止めたるもの。

## 我國の火山

- 一、千島火山帯——惠山、駒ヶ岳、雌阿寒岳、松輪島。
- 二、那須火山帯——岩手山、恐山、吾妻山、盤梯山。
- 三、鳥海火山帯——岩木山、鳥海山。
- 四、富士火山帯——富士山、三原山、淺間山。
- 五、白山火山帯——立山、白山、三瓶山。
- 六、阿蘇火山帯——阿蘇山。
- 七、霧島火山帯——霧島山、櫻島、開聞岳。

# 山

## 世界の火山



# 温泉

成因——地熱のために温められたる水の流出するもの。

含有物により——  
鹽類泉——有馬、熱海、  
炭酸泉——別府、  
單純泉——道後、湯本、  
酸性泉——蘆の湯、  
草津。

## 種類

湧出の模様により——  
温泉——温湯又は熱湯の湧出するもの。  
冷泉——冷きもの、湧出するもの。  
間歇泉——一定の時を定めて湧出するもの。

火山の多き地方に多し。

## 分布

### 有名温泉

我國にはここに多く、總數五百餘ヶ所。  
鹽類泉——伊香保(上野)、塔の澤(箱根)、熱海(伊豆)、  
修善寺(伊豆)、山中(加賀)、有馬(攝津)、  
硫黄泉——蘆の湯(箱根)、  
炭酸泉——別府(豊後)、  
單純泉——湯本(箱根)、道後(伊豫)、  
草津(上野)、  
熱海、鬼首(陸前)、  
酸性泉——  
間歇泉——  
アイスランド——世界第一、  
の大間歇泉——一日一回、  
高さ百尺、  
周圍十尺——の大熱湯柱。

# 地震

## 原因

火山地震——火山の破烈に伴ひて起るもの。  
地亡地震——地層の皺の變動一方は高くなり、一方は低くなる。  
陷落地震——地盤の落下するもの——日本には少し。

火山との關係深し、故に——太平洋沿岸地方、地中海沿岸地方。

世界中最も多き地方。

## 地震多き地

### 我國

最近三十年間に一萬八千回に及ぶ。  
濃尾大地震——廿四年。  
庄内地震——廿七年。  
奥羽地震——廿九年。

近年の大地震——  
海嘯——近海の底に起りし地震——廿七年の奥羽海嘯。



# 河 流

## 河流の作用

附近の水を集めて海に入る。  
 上流 || 高地を流る | 急流 | 岩石を碎く | 深谷をなす。  
 中流 || 流れ緩かくなる | 急流 | 岩石、泥沙の重きものを沈殿す。  
 下流 || 流れいよ | 緩漫 | 泥沙の推積 | 三角洲の構成。

## 河流の利害

利益 || 灌漑の便、動力の源、交通の便、  
 害 || 洪水氾濫、都會の發達、風景、漁獵。

## 世界の大河

ラダ イニ ンブ 河	ユ フ ラ ト 河	チ グ リ ガ 河	ガ ン ゴ 河	黄 ン ゴ 河	コ ン ゴ 河	黒 龍 江	揚 子 江	ア マ ゾ ン 河	ナ イ ル 河	ミ シ シ ッ ピ 河
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二 三〇	五 二〇	七 五〇	一 〇三〇	一 〇五〇	一 〇五〇	一 三三〇	一 三三〇	一 三六〇	一 四九〇	一 六三〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一 四、〇	五、 一	四、 八	一 〇八、 一	六、 三	三、 六	二、 五、 六	二、 〇、 九	四、 〇、 六	一、 七、 五、 〇	二、 〇、 三、 〇
北海	黒海	古代文化の發源地	印度大平野の血管	支那文明の發源地	コンゴ國の交通路	北滿州の交通路	南清の大動脈	南米の大平野	古代文化の發源地	北米大平野

# 平 野

## 我國の大河

地狭形く、中央に山脈あり、大河なし、急流多し。  
 信濃川 長さ 九七<sup>里</sup> 流域 七九<sup>方</sup> 航通の船數 一七〇〇

筑後川	吉野川	淀川	木曾川	利根川	阿武隈川	北上川	石狩川	信濃川
同	同	同	同	同	同	同	同	同
七 七〇	七 七〇	二 〇〇	五 五〇	七 七〇	三 五〇	六 七〇	一 〇〇〇	七 〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同
一 八五	二 四〇	五 四〇	六 〇〇	一 〇〇〇	三 六〇	七 〇〇	一 〇〇〇	三 三〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同
三 〇〇〇	一 二〇〇	一 三、 五〇〇	三 〇〇〇	三 〇〇〇	三 〇〇〇	三 〇〇〇	三 〇〇〇	三 〇〇〇

## 河流と人生

流域    平野	灌漑の便	運輸の便	肥沃	農業	動力の便	生活に
平野と都會	牧畜	工業の發達	肥沃	農業	動力の便	生活に
東京。大坂。京都。名古屋。廣島。岡山。	モスコ。ロンドン。バル。ペルリン。ウイーン。	カルカタ。漢口。上海。天津。	同	同	同	同

# 湖 沼

**成因**

- 一、地盤の凹所に水の溜れるもの——琵琶湖
- 二、地震の作用によるもの——斷層の凹所に水の溜れるもの——琵琶湖
- 三、火山の作用によるもの——  
〔甲〕噴火口に水の溜れるもの——蘆の湖。  
 〔乙〕噴出の土砂が谷の口を埋めしもの——檜原湖
- 四、河道の變更——舊河の淵の残れるもの——霞が浦。
- 五、河流の運びたる土砂が海底に堤を作りしもの——中海（伯耆）

**種類**

淡水湖——排水口を有す、故に、水は常に流動交代す。

鹹水湖——排水口を有せず、水の蒸發により次第に塩分を増加す。

**利益**

交通の便、運輸の便、灌漑の便、水産の利益。

部邑の發達——シカゴ、セントマリ、ジュネーブ。

**世界の太湖**

裏海（面積二七四二〇方里）。

スベリオル（五〇五〇）。

ヒューロン（三八五〇）。

バイカル（二二二〇）。

琵琶湖（周回七三里）。

猪苗代湖（二六）。

北浦（二五）。

矢道湖（二三）。

死海（五七方里、塩分最多し）。

ピクトリヤ（四二八〇）。

ミシガン（三六三〇）。

タンガンイカ

霞が浦（三六）。

中海（二六）。

支笏湖（二五）。

印幡瀉（二二）。

猿間湖（二三）。

八郎瀉（二五）。

小河原沼（二四）。

十和田湖（二〇）。

**日本の太湖**

**變動**

- 一、河流の推積作用。
- 二、風波の推積作用又は侵蝕。
- 三、急激なる隆起、陥没。
- 四、緩慢なる土地の昇降。

**海岸と文明**

- 一、砂濱の長く連れる所——良港なし——交通不便——不發達
- 二、絶壁の高く聳てる所——良港に富む——交通至便——文明進む。
- 三、屈曲甚しき所——
- 四、海底深き所——

**都會の發達**

ニューヨーク、ブエノスアイレス、

ペテルブルグ、マルセイユ、ボンベ、香港、

神戸、横濱、長崎、小樽、函館。

**各大陸の海岸線**

最も長き海岸線——ヨーロッパ洲——最も進歩發達。

次に北アメリカ洲——次にアジア洲。

最も短き海岸線——アフリカ洲——最も未發達の地

日本——第一——九州——第二——本州——第三——四國——第四——北海道——第五——樺太——第六——臺灣

# 海 岸 線

# 海流

海水の運動

- 一、波浪——風に原因す。
- 二、海嘯——海底に起りし地震に原因す。
- 三、海流——常に一定の方向に吹風に誘れて起りしもの
- 四、潮汐——月、太陽の引力に原因す。

海流の種類

- |  |   |
|--|---|
| <p>温流</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一、通常の海水より温暖なり</li> <li>二、多きは赤道地方より流る</li> </ol> <p>利益</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一、氣候を暖にす</li> <li>二、雨を多くす</li> <li>三、航海を速にす</li> <li>四、暖地の水産物を持來る</li> </ol> | <p>寒流</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一、通常の海水より寒冷なり</li> <li>二、多きは赤道地方より流る</li> </ol> <p>利害</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一、航海を容易にす</li> <li>二、寒地の水産物を持來る</li> <li>三、航海を妨ぐ(氷流)</li> </ol> |
|--|---|

我近海の海流

- |   |   |
|---|---|
| <p>寒流</p> <p>オホーシク海流——樺太島のため二分</p> <p>千島海流——ベールング海峡より來る</p> <p>金華山の沖に達す</p> | <p>温流</p> <p>日本海流——臺灣の東南より來る</p> <p>對馬海流——日本海々岸</p> <p>黒潮</p> |
|---|---|

メキシコ湾流

- アフリカ洲の西岸に起り——西流——メキシコ灣を一周し——北アメリカの東岸を東北に——本流——イギリス、ノルウェーの海岸を流る——ホルトガルよりアフリカに向ふ——ヨーロッパ州の氣候を温暖ならしむる一大原因。

# 潮

現象

海水の増加——満潮  
海水の減退——干潮  
一晝夜に二回づつ、六時間毎に規則正しく行はる。

種類

- |   |           |
|---|-----------|
| <p>高潮</p> <p>太陽、月、地球が同一線上に來りし時——新月、満月、太陽、月、地球が直角線にある時——上弦、下弦</p> <p>陰曆一ヶ月に二回づつ。</p> | <p>低潮</p> |
|---|-----------|

海陸の分布、海底の状況によりて、高低遅速一様ならず。

利用

干満の時を利用して船舶の出入。  
干潮に乗じて海底の事業を行ふ。  
干満を利用して塩田の利を得。

潮流

海峡を隔て、潮汐のために生せる兩海水面の高低によりて生ずる一種の海流。  
鳴門海峡——渦流をなす——航海頗る危険。  
馬門海峡——海流の速力、一時間五里に及ぶ。

氣象

空氣の溫度  
濕氣—雨雪  
風向……

多年間の觀測——平均——其地の氣候。

一、緯度の高低

熱帶——炎暑——赤道の南北。  
溫帶——溫暖——熱帶寒帶の間。  
寒帶——寒冷——兩極地方。

二、土地の高低

高地——溫度低し。  
低地——溫度高し。

三、水陸の分布

海岸地方——寒暑の差少し。  
内地地方——寒暑の差多し。

四、海流の影響

暖流——地方を溫暖にす。  
寒流——地方を寒冷にす。

五、風の方角

赤道地方の風を受くる地——高溫。  
兩極地方の風を受くる地——寒冷。

溫度の高低を  
生ずる原因

氣

風  
風の種類

原因——溫熱のため空氣が稀薄となり、周圍の空氣の流れ入もの

一般の風向

兩極地方より、赤道地方に向つて吹く。  
風向を變せしむる原因——地球の自轉。  
時々起る各地の低氣壓。

一、貿易風

赤道の南北三十度以内に於ていちぢるし。  
北半球——東北より西南に——地轉自轉のため  
南半球——東南より西北に——

二、氣候風

夏大洋——より大陸に——向ひて吹く。  
冬大陸——より大洋に——  
日本にては——夏——東南風。  
冬——西北風。

三、海陸軟風

沿海地方に限る——晝海より陸に向つて  
氣温の調和——寒暑の差を少くす  
氣海洋性——海陸軟風を受くる地方  
氣大陸性——海陸軟風を受けざる地方  
影響——寒暑の差多。内地々方



生物 (動物、植物)

の分布——緯度の高低——氣候の變化——地勢——位置——土質

氣温高く、年中發育す。

椰子 {高さは百尺——周圍三尺——果實は土人の食料。}

芭蕉——大なる葉——長さ一丈一尺幅二尺

榕樹——數多の氣根——一樹一林をなす

羊齒類——長大なる木質となる。

美味の果實——バナナ、パイナップル

珈琲、甘蔗、香料、柑橘類、米。

巨大なるもの、猛惡なるもの、種類多し

象、犀、獅子、鱈魚、駝鳥、孔雀、

シラフ、河馬、毒蛇。

生

(一) 物

各帯の生物

熱帯地方

植物

動物

植物

動物

温帯地方

寒帯地方

土地の高低と生物の分布

巨大なるものなきも、種類甚多し。

松、杉、檜、樅、樺、楡、山毛櫸、

米、麥、茶、桑。

花の賞すべきもの。美味なる果實。

牛、馬、羊、豚——有用の家畜。

野獸の種類少し。

氣温低く、濕氣少く、發育惡し。

巨大のものなく、種類少し。

北部には、僅に蘚苔類あるのみ。

動物——白熊、馴鹿、豹。

山麓より頂上に至るに従ひ、熱帯、温帯、寒帯に於ける生物の分布と同様の變化をなす。

生

各大陸  
特有の生物

アジヤ洲

動物 象、獅子、虎、犀、  
駱駝、肉塊一個——沙漠の船、  
植物 茶、樟腦

アフリカ洲

動物 象、獅子、虎、犀、河馬、  
駱駝、肉塊二個、  
植物 中第一の巨樹、  
高さ七丈より九丈、  
幹の周囲二丈より三丈、  
果實の長さ一尺五寸、  
六百年も生存す

植物 〓 パオバブ

アメリカ洲

動物 ビニーマ、カリフォルニア獅子、  
ジャッガー、全身黄褐色、黒斑點、  
アルバカ、羊に類似せるもの、  
海狸、コンドル、——兩翼九尺、  
袋鼠、

オースト  
ラリヤ

動物 鴨嘴獸、エミュー、  
植物 〓 ユーカリ樹 (高さ三十丈より四十五丈、  
よく濕氣を吸ふ)

土地肥沃、氣候温和、雨量多く、植物の生育に適す。

牛、馬、豚、雞(以上各地に)。

水牛、ハブ、海龜——南方暖海に。

膾炙獸、臘虎、海豹——北方寒海に。

暖流、寒流共にあり、頗る豊富。

魚類 鰻、鯉、鮪、烏賊、鯖、鰹、鮪、鮭、鱒、  
鱈、鰈、蟹、牡蠣、

鯨は北海にても九州にても捕獲す。

森林の面積二千二百六十萬町歩——一ヶ年六千萬圓

臺灣、琉球、小笠原群島には熱帯林植物、  
本州には暖帯林植物、  
本州の北部、北海道には温帯林植物、  
高山の山頂には寒帯林植物。

(二) 物

我國の生物

動物

植物

○小學地理四

二十五

二十四

人種

アジヤ人種

特徴 皮膚黄色を帯ぶ(黄色人種)。頭髮黒くして眞直。髭鬚多からず。頬骨高く、顔面や扁平。

數 約、五億——全世界人口の三分の一に及ばず。

蕃布

ヒマラヤ山脈以北のアジヤ、ヨーロッパの東北部。グリーンランド、ハンガリー。日本人、支那人、滿州人、朝鮮人、トルコ人、ハンガリー人、フィンランド人、エスキモー人、

ヨーロッパ人種

特徴 皮膚白色にして淡紅色を帯ぶ(白色人種)。頭髮褐色——波状。鼻高く、額廣く長し。

數 約八億——全世界人口の半——最も開化したる人種

蕃布

ヨーロッパ大部、アジヤの西南、アフリカの北部。アフリカの南端、オーストラリアの海岸、北アメリカ洲、南アメリカ洲の沿岸地方。イギリス人、ドイツ人、フランス人、イタリヤ人、ロシア人、ギリシヤ人、アラビヤ人、アメリカ人。

人口 (一)

アフリカ人種

特徴 皮膚黒色(黒色人種)。頭髮は螺旋狀。鼻と額とは低く、唇厚し。

數 一億五千萬——野蠻の狀態にある最下等の人種

蕃布

アフリカ洲の南端を除ける大部分、アメリカ洲の一部分(少しく智識進歩す)。コンゴ人、ホッテントット人、モザンビク人。

特徴

皮膚銅色(銅色人種)。頭髮は縮み或は眞直。鼻高く、頭骨をびゆ。

アメリカ人種

數 一千七百萬、ヨーロッパ人との雜種を多く生ず

蕃布

カナダ、メキシコ、南アメリカの大部分。チツプエー人、カリブス人、バタゴニヤ人。

海岸島嶼人民

マライ人種——皮膚複色(褐色人種)。その他、何れの人種にも屬せざるもの、特徴少し。

數 四千五百萬

蕃布

オーストラリアの内部、印度の南部。マライ半島、印度洋、太平洋の諸島、マライ人、ボルネオ人、フィジー人、ニュージージーランド人。



# 人種

## 日本國民

日本民族

太古以來續けるもの。  
忠孝——義勇——大和魂——智識發達。

歸化種族

多くは支那、朝鮮より歸化せしもの。  
全く日本民族に同化せられたり。

アイヌ——北海道に住す——一萬五千。

臺灣

漢人——支那人の移住せるもの  
蕃人——臺灣土人——蠻民

二百八十萬。

## 世界の人口

ア—ジヤ洲	八億五千萬
ヨーロッパ洲	二億八千萬
アフリカ洲	一億二千七百萬
北アメリカ洲	八千九百二十萬
南アメリカ洲	三千六百四十萬
大洋洲	四百七十萬
合計	十四億八千七百九十萬
日本	男——二千三百六十萬 女——二千三百三十萬 合計——四千六百九十萬

(明治三十一年調査)

# (二) 人口

## 人口の粗密

最も密なる地方

清國東部の平原、カンガ河流域。  
ヨーロッパ——ベルギー——一方里——三千七百八十人  
イギリス——二千五百三十人

最も粗なる地方

南北アメリカ、シベリヤ地方。  
オーストラリア、ヨーロッパ洲の五十分二

密なる地方

關東平野地方——一方里六千人以上。  
濃尾平野地方——一方里六千人以上。  
大坂平野地方——一方里六千人以上。  
淡路島——一方里五千人以上。  
臺灣の西海岸——一方里五千人以上。  
九州の西北部——一方里五千人以上。  
瀬戸内海沿岸——一方里五千人以上。

粗なる地方

臺灣の山地——一方里百人以下。  
羽前越後境上——一方里百人以下。  
北海道の大部——世界平均密度の十二倍  
平均一方里に付一千八百人——八十五市町村。  
人口二萬以上の都邑——約八十五市町村。

言語

最も広く用ひらるる言語

イギリス語

世界商業上の用語、世界語たらんとする勢あり。  
イギリス、アメリカ合衆國、カナダ、オーストラリア、インド、南アフリカ、その他廣大なるイギリスの殖民地。

フランス語

文法精確、發音優美。  
西洋諸國に於ける上流社會の交際語、外交語、フランス、ベルギー、スイス。

ドイツ語

發表の精確なるを特徴とす。  
學術語として學者間に用ひらる。  
ドイツ、オーストリア、スイス。

イスパニヤ語

イスパニヤ、メキシコ、中央アメリカ、南アメリカの大部。  
昔、廣大なる殖民地を有せし遺物。

東洋に於て主要の國語

日本語、支那語、印度語、ロシア語、朝鮮語、イギリス語。

國勢と國語

國運隆盛なれば、その國語廣く行はる。イギリス國運衰ふれば、その國語も亦衰ふ。イスパニヤ。

政體

君主國體

立憲政體

專制政體

民主國體 || 共和國體

憲法を定め、これによりて政治を行ふ。

立憲帝國

日本、イギリス、ドイツ、イタリヤ、オーストリア、ハンガリー、

立憲王國

スエーデン、ノルウェー、デンマーク、ベルギー、オランダ、イスパニヤ、ポルトガル、ルーマニア、セルビア、ギリシヤ、モンテネグロ。

君主の意志のままに政治を行ふ。

專制帝國

韓、清、ロシア、トルコ、モロッコ。

專制王國

ベルシヤ、シヤム。

憲法を制定し、人民より大統領を選舉す。  
フランス、スイス、リベリヤ、メキシコ、アメリカ合衆國、中央アメリカの諸國、南アメリカの各國、西印度諸島の諸國。

中央政府

内閣

内閣總理大臣の統括  
 各大臣を以て組織す  
 外務省 地方行政、外交、警察、土木、衛生、地理、宗教、出版、議員選舉、臺灣總督、樺太民政長官、關東州民政長官、府縣知事の監督、北海道長官、内務省 大藏省 陸軍省

衆議院

被選舉資格 帝國臣民 三十歳以上の男子  
 選舉資格 滿二十歳以上 國税十圓以上納むるもの 一年以上選舉區内に居住 右の四要件を具備するもの

各府縣より選舉せられし議員

總數 三百七十九人

貴族院

成年に達せる皇族 現今十三人  
 公侯爵 (廿五歳以上の戸主) 四十人  
 伯子男爵 (同) 互選 百十九人  
 勅選 國家に功勞あるもの の内より勅選せられしもの (三十歳以上) 任期終身 百十三人  
 多額 各府縣内に於て、多額の税を納むるもの十五人中より、一人互選し 勅任納税 せられしもの (三十歳以上) 任期議員 七年 四十五人  
 合計 三百三十八人

政體

立憲政體 國政の三機關  
 明治二十二年二月十一日憲法發布  
 同廿三年十一月第一期帝國議會召集  
 すべての法律は、貴族院、衆議院共に賛成し、天皇陛下の裁可を経て、始めて効力を生ず。

立法機關 帝國議會 (貴族院、衆議院) 三權分立  
 行政機關 中央政府、地方官廳  
 司法機關 裁判所

# 政治

國政の  
三機關

行政  
機關

地方  
官廳

各省

海軍省 海軍に關すること

司法省 裁判に關すること  
監獄に關すること  
戸籍に關すること

文部省 教育に關すること

農商務省 農業、商業、工業、地質、  
發明に關すること

逓信省 郵便、電信、電話、鐵道、航海  
に關すること

各大臣 次官 局長以下。

府廳 府知事 東京、大坂、京都

縣廳 縣知事 四十三縣

警視廳 警視總監 東京の警察

北海道廳 樺太民政長官

關東州民政署 遼東半島の政務

郡役所 郡長 五百四十一ヶ所

市 市長 五十八市  
町村 町村長 一萬二千八百十七町村

臺灣總督府 臺灣總督、  
支廳長、

大審院 東京 最高の裁判所

控訴院 東京、名古屋、大坂、廣島、長崎

地方裁判所 四十九ヶ所

區裁判所 二百十ヶ所

同出張所 一千三百六十九ヶ所

特殊の裁判所 臺灣總督府法院、  
軍人 陸軍軍法會議、  
海軍軍法會議。

司法機關

特種の官廳

樞密院 天皇の最高顧問府 議長以下三十人。  
宮内省 帝室に關する事務を掌る 政治に關係せず。  
會計検査院 政府の會計を監督す。  
行政裁判所 行政上の紛議を審判する所。

陸軍

イギリス	平時	本國	二二七、六〇〇人
	戰時	印度	二一八、六〇〇人
		カナダ	三八、二〇〇人
ロシア	平時	本國	九一六、〇〇〇人
	戰時	印度	三三六、〇〇〇人
		カナダ	二四一、〇〇〇人
ドイツ	平時		六〇一、四〇〇人
	戰時		五六五、七〇〇人
フランス	平時		四五六、一四〇〇人
	戰時		六二七、〇〇〇人
オーストリア	平時		一八八、八〇〇人
	戰時		一八六、二〇〇人
ハンガリー	平時		二四八、八〇〇人
	戰時		二〇一、〇〇〇人
イタリア	平時		二〇一、〇〇〇人
	戰時		二〇一、〇〇〇人
アメリカ合衆國	平時		五九、九〇〇人
	戰時		八七、二七、五〇〇人

主要國の軍備

海軍

トルコ	平時	一二七、六〇〇
	戰時	一一六、七〇〇
清國	平時	二二七、六〇〇
	戰時	六六五、〇〇〇
イギリス	戰時	二〇〇、〇〇〇
フランス	戰時	二〇〇、〇〇〇
アメリカ	戰時	二〇〇、〇〇〇
合衆國	戰時	二〇〇、〇〇〇
ロシア	戰時	二〇〇、〇〇〇
ドイツ	戰時	二〇〇、〇〇〇
イタリア	戰時	二〇〇、〇〇〇
オーストリア	戰時	二〇〇、〇〇〇
ハンガリー	戰時	二〇〇、〇〇〇
清國	戰時	二〇〇、〇〇〇

戰艦、巡洋艦、海防艦、水雷砲艦の合計、  
 イギリス……二四五艘……一、八三五、四三〇噸  
 フランス……一一四……七三九、二二七噸  
 アメリカ……六九……六〇五、四四〇噸  
 合衆國……六四……五一三、二九五噸  
 ロシア……六四……  
 ドイツ……七三……四八二、一七五噸  
 イタリア……五一……三〇一、一二三噸  
 オーストリア……四七……  
 ハンガリー……  
 清國……二五……

(この内日露戦争によりて多く失へり)

# 軍

○小學地理四

## 陸軍

(國師) 組織

工騎兵、  
砲兵、  
輜重兵、  
各一聯隊

步兵

師		團	
團 旅		團 旅	
聯隊	聯隊	聯隊	聯隊
大隊	大隊	大隊	大隊
中隊	中隊	中隊	中隊

三十九

## 十七師團

十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	近衛	師團司令部
姫路	金澤	弘前	上川	熊本	廣島	大坂	名古屋	仙臺	東京	東京	旅團
姫路	敦賀	秋田	上川	久留米	山口	伏見	名古屋	仙臺	東京	東京	兵營所在地
島取	鯖江	秋田	上川	鹿兒島	山口	伏見	名古屋	仙臺	東京	東京	
島取	鯖江	秋田	上川	鹿兒島	山口	伏見	名古屋	仙臺	東京	東京	
島取	鯖江	秋田	上川	鹿兒島	山口	伏見	名古屋	仙臺	東京	東京	
島取	鯖江	秋田	上川	鹿兒島	山口	伏見	名古屋	仙臺	東京	東京	
島取	鯖江	秋田	上川	鹿兒島	山口	伏見	名古屋	仙臺	東京	東京	
島取	鯖江	秋田	上川	鹿兒島	山口	伏見	名古屋	仙臺	東京	東京	

三十八

兵員  
 平時——十六萬七千六百人  
 戰時——六十三萬二千人  
 士官——一萬四千一人  
 四個師團増設以前にて

常備兵  
 現役——二十歳のもの三ヶ年。  
 豫備役——現役を終りしもの  
 四年四ヶ月。

兵役  
 後備兵——豫備役を終りしもの——三ヶ年。

補充兵——凡二ヶ月間教育を受く。

國民兵——十七歳より四十歳までの者。

種類——步兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵。

臺灣守備軍——各師團よりの混成旅團。

要塞砲兵  
 東京灣、由良、吳、  
 藝豫海峽、下の關、佐世保、  
 對馬、舞鶴、函館、

警備隊——對馬。

海軍區

第一海軍區

鎮守府——橫須賀  
 區域——羽後、陸奥の國界より以北——北海道——千島——本州東海岸——南海岸紀伊の南端迄

第二海軍區

鎮守府——吳  
 區域——紀伊の南端より以西——瀬戸内海——四國海岸——九州北端より東海岸——日向大隅の境迄

第三海軍區

鎮守府——佐世保  
 區域——九州西海面——琉球、臺灣——壹岐、對馬。

第四海軍區

鎮守府——舞鶴  
 區域——中國の西端より東北——日本海々面——羽後——陸奥の境迄

海軍

要港

竹敷要港(對馬)、馬公要港(澎湖島)、  
大港水雷團(陸奥)

兵員

將校 凡三萬人。  
下士卒 凡二千四百人。

兵役

常備兵 現役 二十歳のもの 四ヶ年  
豫備役 現役を終りしもの 三ヶ年  
後備役 豫備役を終りしもの 三ヶ年  
志願者を検査して採用す

種類

水兵、機關兵、

戰鬥艦

富士、敷島、朝日、三笠、  
石見、相模、丹後、周防、  
肥前、香取、鹿島

巡洋艦

一等 淺間、常盤、八雲、  
吾妻、岩手、出雲、  
日進、春日、阿蘇、  
筑波、生駒

二等 九隻、  
三等 九隻、

軍艦

海防艦 十三隻、

砲艦 六隻、

通報艦 五隻、

水雷母艦 二隻、

驅逐艦 四十八隻、

水雷艇 八十五隻、

潜水艇 七隻、

建造中

戰鬥艦 薩摩、安藝、  
巡洋艦 二等 鞍馬、伊吹、  
三等 一隻、  
砲艦 一等 一隻、  
通報艦 二隻、  
驅逐艦 六隻、

總噸數 四十二萬一千五百噸、



教

効果  
智識を増進す  
徳行を高くす  
品位を高尙にす

文明の根源  
強國  
國家富強の基。  
大に力を教育につくす。

ドイツ  
教育の盛なること世界第一。  
小學校 || 約五萬八千八百校。  
中等學校 || 約一千三百四十校。  
大學 || 二十一校。各種學校三百七十校。  
徴兵人員二千人に付一人  
文字を知らざる者  
今より六年前の統計

フランス  
小學校 || 約八萬四千九百五十校。  
中等學校 || 約一千二十校。  
大學 || 五十二校(分科大學)。高等學校 || 廿三校  
徴兵人員一千人に付十二人  
文字を知らざる者  
今より七年前の統計

イギリス  
小學校 || 約三萬三千校。  
中等學校、各種學校 || 約一千三百三十校。  
大學 || 二十六校。

育

教育の最  
盛なる國

イタリヤ  
小學校 || 約三萬七千八百校。  
中等學校、各種學校 || 約一千八百八十校。  
大學 || 二十一校。  
徴兵人員百人中三十二人。  
文字を知らざる者  
今より四年前の統計。

オーストリヤ  
小學校 || 約二萬〇三百校。  
中等學校、實業學校 || 約四百二十校。  
大學 || 八校。齒科大學は世界一。  
特別技藝學校 || 約四千九十校。

ロシヤ  
小學校 || 約七萬八千七百校。  
中等學校、各種學校 || 約一千百七十校。  
大學 || 九校。

アメリカ  
合衆國  
大學、專門學校 || 四百六十四校。  
高等學校、師範學校 || 約八千七百校。  
各種の學校 || 一千二百五十校。  
徴兵人員百人に付十一人  
文字を知らざる者  
今より六年前の統計。

# 我國の

小學校 昔は寺子屋——明治の御代に至りて大に發達す。  
〔三萬〇百五十七校——生徒數五百四十六萬九千人(三十五年)〕

實業補習學校 實地職業に要する簡易なる學術 農業、水産、工業、商業、船舶、徒弟 學校——六百六十四校  
技藝を授く

實業學校 實業に關する教育 農業、工業、水産、商業、船舶 學校——百九十校

中學校——高等の普通教育——二百五十八校。  
高等女學校——女子に高等の普通教育を授く——八十校。

各種學校——何れにも組入れ難き程度の各學校——一千六百五十七校  
各種專門學校——高等なる專門教育——五十八校。

高等學校 高等の專門教育 第一 東京。第二 仙臺。第三 京都。第四 金澤。第五 熊本。第六 岡山。第七 鹿兒島造士館。第八 山口高等學校。

大學 東京帝國大學——六分科と大學院——學生三千六百八十五人。  
京都帝國大學——學生八百八十八人。

教員養成の學校 師範學校——各府縣にあり——五十七校。  
高等師範學校 東京高等師範學校。  
女子高等師範學校。  
廣島高等師範學校。

貴族の學校 學習院。  
華族女學校。

陸海軍の學校 陸軍大學校以下十六種。  
海軍大學校以下六種。  
盲啞學校——盲啞者の教育——十九校。

高等專門學校 札幌農學校、盛岡高等農林學校、東京高等商業學校、  
神戸高等商業學校、東京高等工業學校、大坂高等工業  
學校、京都高等工業學校、東京外國語學校、東京美術  
學校、東京音樂學校、東京郵便電信學校、  
醫學專門學校(千葉、仙臺、岡山、金澤、長崎)  
東京商船學校、大坂分校、  
函館分校、

この他 醫學學校、藥學學校——十六校。文學——五校。  
政治法律經濟の學校——十五校。理學——三校。

# 教育

○小學地理四

# 世 界 宗 教

文明の民も、野蠻の人種も、何れかの宗教を奉せざるもの少し。  
何れの宗教も、アジア洲より發す。

佛教 || 信徒四億八千萬

小乘教

シヤム、ビルマ、  
アンナン、セ  
イロン地方に  
行はる

教祖 || 釋迦

大乘教

日本、清國、  
韓國等に行は  
る。

王の時にて  
三子を生ず  
出家し、苦  
行六年に始  
て佛教を始  
む

三大宗教

基督教 || 信徒五億

ギリシヤ教

ヨーロッパの  
東都に  
行はる

教祖  
キリスト

天主教

ヨーロッパの  
南部に行はる

一千年前  
エルサレ  
ム市の南  
方に生ず  
三十歳の  
時に神の  
なりと稱し

新 教

ヨーロッパの  
西北部、北部  
アメリカ洲

て博愛を説  
く、後反對  
者のために  
磔殺せらる

教祖

モハメット

回教 || 信徒二億二百萬

アラビヤ、ペルシヤ、  
トルコ、アフリカの  
北部、ヨーロッパのト  
ルコ地方に行はる。

一千三百三十  
六年前メッ  
カに生る自  
ら上帝の使  
と稱し兵力  
を以て弘布す

印度教

バラモン教ともいふ。古より印度に行はれしもの。  
釋迦は、この宗教に反對して、佛教を起せしなり。

ユダヤ教

ユダヤ人の奉ずるもの、基督教の本源なり。

拜火教

火を神として拜するもの

拜物教

鳥獸などを神又は神の使として禮拜するもの

野蠻人に行はる。

○小學地理四

宗教

神道

敬神の國風

皇室の御先祖、民族の先祖、國家に功勞ありし人の遺徳を追慕し、崇敬するの風あり。佛敎渡來の始め、容易に流行せざりし原因なり。

十二派

- 神宮敎 大社敎 扶桑敎 實行敎
- 黒住敎 修成敎 大成敎 神習敎
- 御嶽敎 禊敎 金光敎 神理敎

伊勢神宮

内宮——天照大神——垂仁天皇の朝。  
外宮——豐受大神——雄略天皇の朝。

神社

- 官幣大社——四十三 官幣中社——廿六 官幣小社——三。
- 別格官幣社——廿一 國幣社——七十五 府縣社——五百三。
- 郷社。村社。無格社。總計十九萬五千二百五十六社。

一千三百五十五年前、欽明天皇の朝、百濟より傳ふ。全國に普及して、信者最も多し。

佛敎

佛敎のよく研究せられざるは世界第一なり。

十二宗

- 天台宗——傳敎大師——總本山は比叡山延曆寺。埼玉、千葉、和歌山、兵庫、岡
- 眞言宗——弘法大師——山、四國の地方に多し。
- 淨土宗——法然上人——京都、愛知、岐阜地方に多し。
- 臨濟宗——榮西——静岡、愛知、山形、新潟、山梨、埼玉。
- 曹洞宗——道元——静岡、愛知、山形、新潟、山梨、埼玉。
- 眞蘂宗——隱元——本山は宇治の黃蘗山。福岡地方。
- 眞蓮宗——親鸞——近畿、北陸、三重、福岡地方。
- 日蓮宗——日蓮——千葉、山梨、静岡、東京、岡山地方。
- 時宗——一遍——
- 融通念佛宗——良念——
- 法相宗——道照——
- 華嚴宗——道慈——
- 寺院の數——七萬一千九百九十二。

基督教

三百五十七年前ザビエーの來りしに始る。新敎、天主教、メソヂスト派、ユニテリアン等種類多し。教會堂の數總一千餘——信徒の數約十萬人。

○小學地理四

産

進歩の

順序の

自然と

世界中最も

世界の農業

農業

一、狩獵時代

鳥獸の餌をあさる如く、野生の動物を捕へて、食とせし時代。

二、遊牧時代

水草を追ひて、動物を飼養し、衣食とせし時代。

三、農耕時代

耕種し定住するに至りし時代。現今肥沃の平野に灌漑の便ある地。農業。

有用礦物の所在地

湖海に沿ひたる地方に便なる地。工業。

米 氣温高く、多雨の地に産す。アジャの東南より南部。

茶 氣温高き地に産す。アジャの東南より南部。

棉 高温にして乾燥なる地の産。印度、アメリカ合衆國。

珈琲 熱帯の産。ブラジル、中央アメリカ、アラビヤ。

麥 温暖地より寒冷地に亘りて産す。ロシア、フラン

砂糖 甘蔗糖 高温地の産。ジャバ、キューバ、ハワイ。

(業農) 業

我國の農業

熱帯、温帯寒帯の植物を生ず。故に農産の種類多し。古來農業を國本とす。農民最も多し。農法も漸次改良せられ、殆ど凡ての農植物を栽培す。

米 品質のよきこと世界第一等。全國の作付反別 二百八十六萬四千三百三十九町歩。産額 四千六百四十七萬三千石 (三十六年)。

大産地 新潟、兵庫、福岡 (以上二百萬石以上)。愛知、千葉、山形、富山、岡山、秋田、茨城、福島、全國の作付反別 七百七十九萬九千三百四十六町歩。

麥 大麥 七百四十六萬二千二百二十石。裸麥 四百二十萬七千四百九十七石。小麥 八百八十七萬五千三百八十八石。合計 二千三百五十四萬五千五百石 (三十六年)。

大産地 埼玉、茨城 (以上百萬石以上)。栃木、群馬、千葉、愛知、兵庫、長野、岡山、廣島、全國の作付反別 四萬八千六百三十二町歩。

茶 産額 六百七十二萬九千八百九貫 (三十六年)。大産地 静岡 (二百萬貫)、三重、京都 (品質最上)、岐阜、奈良、茨城、熊本、滋賀、福岡、臺灣よりも多く産す。

産

種

類

牛 肉用 — 乳用 — 使役用。  
 馬 使役用。  
 羊 衣服の原料 — 毛織物。  
 豚 肉用。  
 家禽 肉用。

世界の 牧畜

牛 { アメリカ合衆國(六千二百萬頭)。印度(五千一百萬頭)。ロシヤ(四千  
 萬頭)。アルゼンチン(二千二百萬頭)。ドイツ(千九百萬頭)。フ  
 ランス(二千五百萬頭)。イギリス(二千百萬頭)。濠洲(八百萬頭)。

馬 { ロシヤ(二千二百萬頭)。アメリカ合衆國(一千七百萬頭)。アルゼ  
 ンチン(五百萬頭)。ドイツ(四百萬頭)。フランス(三百萬頭)。ハン  
 ガリー(二百萬頭)。イギリス(二百萬頭)。濠洲(二百萬頭)。

羊 { オーストラリヤ — 産額五億 萬ホンドー七千二百萬頭。  
 アルゼンチン — 同 三億七千萬ホンドー七千四百萬頭。  
 ロシヤ — 同 三億六千萬ホンドー六千二百萬頭。  
 アメリカ合衆國 — 同 二億九千萬ホンドー六千四百萬頭。

豚 { アメリカ合衆國(四千七百萬頭)。ドイツ(二千七百萬頭)。ロシヤ  
 (二千三百萬頭)。ハンガリー(七百萬頭)。フランス(七百萬頭)。

(畜牧) 業

日本の 牧畜

牛 { 西洋種を輸入して改良を計りつゝあり。  
 總數 一百二十八萬六千六百頭(三十六年)。  
 牧牛地方 廣島、岡山、長崎、兵庫(但馬は良種)、  
 鹿兒島、大分、島根、山口、熊本、  
 故に中國地方、九州地方に盛なり。

馬 { 西洋種を輸入して改良を計りつゝあり。  
 總數 一百五十一萬四千七百四十五頭(三十六年)。  
 牧馬地方 鹿兒島、熊本、岩手、福島、宮崎、  
 青森、秋田、宮城、北海道、  
 故に九州の南部、本洲の東北に盛なり。

豚、羊 { その數少くして、いふに足らず。

〔古來、あま〕 原因 大平野に悉しきこと。毛織物を用ひざりしこと。肉食の盛ならざりしこと。——佛教。封建制度 — 交通の自由を妨げしこと。牛馬の劣等なること。人間体格の虚弱となりしこと。毛織物の輸入甚多し。現今熱心に改良しつゝあり。

結果

氣候の影響を受くること大なる故、養蠶地方は殆ど確定せらる。

清國——世界一の大産地

一ヶ年産額——約四百萬貫。  
改良に勉めず——糸質良好ならず

イタリヤ——一ヶ年の産額——約九十五萬貫——糸質善良

フランス——一ヶ年の産額——約十三萬貫。

熱心に奨勵しつゝあり——糸質最も良好。

古來より盛に行はる——殆ど全國産せざる地なし。

輸出品中の第一位を占む——一億二千五百萬圓(絹布共)

製糸法未だ完全ならず——  
フランス産の次位あり  
イタリヤ

桑畑總反別——三十二萬町歩。

### 産

#### 大養蠶國

### (蠶養) 業

#### 日本

#### 收穫

蠶糸

生糸——二百五十九萬九千五百七十貫  
其他——七十五萬五千八百八十貫。

眞綿——六萬二千八百五十八貫。

蠶卵紙——五百六十八萬七百九十七枚。

(明治三十六年)

本洲中部地方。奥羽地方。  
關東地方。

盛なる地方

#### 收穫高

十萬石以上

長野、埼玉、群馬、  
福島、岐阜、愛知

七萬石以上

山梨、茨城、東京、  
神奈川、山形、静岡

四萬石以上

千葉、滋賀、宮城、  
三重、新潟、栃木、  
兵庫、京都

産

重要な  
る礦産

鐵

アメリカ合衆國(三千三百萬噸)。ドイツ(二千九百萬噸)。イギリス(二千四百萬噸)。フランス(五百萬噸)。ロシア(四百萬噸)。オーストリア、ハンガリー(三百萬噸)。ベルギー(二百萬噸)。

石炭

アメリカ合衆國(三億二千六百萬噸)。イギリス(二億三千四百萬噸)。ドイツ(一億六千三百萬噸)。オーストリア、ハンガリー(四千萬噸)。フランス(三千五百萬噸)。ベルギー(二千四百萬噸)。ロシア(千六百萬噸)。

金

オーストラリア(一億六千三百萬圓)。アメリカ合衆國(一億六千萬圓)。南アフリカ(七千八百萬圓)。ロシア(四千五百萬圓)。カナダ(四千二百萬圓)。メキシコ(二千萬圓)。

銀

メキシコ(五十六萬貫)。アメリカ合衆國(四十五萬貫)。ポリビア(六萬二千貫)。ドイツ(四萬八千貫)。イスパニヤ(三萬三千貫)。カナダ(二萬五千貫)。

銅

アメリカ合衆國(三十一萬噸)。イスパニヤ(五萬噸)。メキシコ(四萬六千噸)。オーストラリア(三萬三千噸)。チリ(三萬一千噸)。ドイツ(二萬二千噸)。カナダ(二萬噸)。

石油

アメリカ合衆國(八千萬石)。ロシア(七千四百萬石)。オーストリア(三百七十萬石)。インド(百五十萬石)。

産額多からざるも、種類に富めり。

産額少く、輸入多し——一ヶ年の産額九百萬貫目。

岩手縣、島根縣、鳥取縣、廣島縣。

産出多し——國家の一大幸福——一千万噸に達す。

福岡、北海道、佐賀、長崎、福島、臺灣。

一ヶ年産額——約八百三十六貫——三百八十萬圓。

北海道(砂金)、鹿兒島、佐渡、秋田、臺灣、生野。

一ヶ年の産額——約一萬五千六百貫目——二百二十萬圓。

秋田、岐阜、佐渡、生野、北海道。

産額多く——質良好——輸出多し。

一ヶ年産額——八百八十五萬貫目。

足尾、別子、阿仁、尾去澤、宮崎、吹屋(備中)。

産額少く、輸入多し。一ヶ年一百万石。

新潟、秋田——愛知——長野に少量づ。

業 (産礦)

我國の  
礦産

石油

産額少く、輸入多し。一ヶ年一百万石。

○小學地理四



暖海流、寒海流の相合する所

〔温暖を好む魚族〕  
〔寒冷を好む魚獸〕

水産豊富となる。

世界三大漁場

ニューファウンドランドの海岸。  
ノルウェーの海岸——鱈はことに有名——肝油。  
北海道の近海。

従業者

漁夫——二百五十萬八千人。  
漁船——四十三萬六千二百艘。

總價格——四千八十六萬六千圓。

漁獲物

主要物

鰻(五百七十一萬圓) 鯉(二百九十五萬圓)  
烏賊(百四十六萬圓) 鯖(百七十三萬圓)  
鯛(三百三萬圓) 鮪(百十二萬圓)  
鰹(百七十一萬圓) 鰹(百五十萬圓)

産

業 (産水)

我國の  
水産業

水産  
製造物

主要物

總價格——二千九百五十七萬圓。  
煮乾鰻(五百七十五萬圓) 錫(二百六十萬圓)  
鰹節(三百四十二萬圓) 榨粕(二百四萬圓) 乾鰻(九十二萬圓)  
乾鰹(八十六萬圓) 鹽鮭(五十三萬圓) 干鰻(七十一萬圓)  
石花菜、昆布

漁業地方——北海道、千葉、静岡、山口、長崎、

鹽田反別——七千九百六十七町步、

製鹽

製鹽額

產額——六百四十八萬二千五百石、  
價格——九百四十二萬六千八百圓、

製鹽地

山口(百六萬石)、香川(百四萬石)、  
兵庫(七十五萬石)、廣島(六十七萬石)、  
其他瀬戸内海地方一般、  
臺灣島

我國の海岸線七千有餘里、世界三大漁場の一を有し、而も、  
産額は、海岸線四百五十里のフランスに等し、大に奮勵せざ  
るべからず。

○農業、牧畜、養蠶、礦業、水産によりて得たる廉價なる原料に人工を加へて高價なる物品を製出す業なり。

○工業の進否は、國運の進否に關すること頗る大なり。

○各文明國競ふて獎勵す——石炭、鐵に富む國は盛大なり。

### 各國の工業

イギリス  
工業に従事するもの——國民百人中五十四人  
綿花紡績、製鐵、織物、造船。

ドイツ  
工業に従事するもの——國民百人中三十七人  
毛織物、綿織物、製鐵、製紙、印刷、麥酒、化學工藝。

フランス  
工業に従事するもの——國民百人中三十四人  
絹布(世界第一等)、葡萄酒、陶磁器。

ベルギー  
製鐵、鐵器、織物、硝子器。

スイス  
工業に従事するもの——國民百人中四十一人  
綿絹の紡績、懷中時計。

アメリカ  
工業に従事するもの——國民百人中二十四人  
合衆國 綿糸紡績、毛織物、金屬工業、鐵。

### 産

#### 生糸 綿糸

輸出品中の第一位  
長野 群馬、埼玉、福島、岐阜、愛知、山梨、茨城、大工場八十餘ヶ所——産額三千九百十五萬貫、大坂、兵庫、東京、岡山、三重、愛知、福岡、廣島、産額——六千五百三十二萬圓。

#### 絹布

縮緬(七百圓) 紬太織物(六百圓) 糸織(四百圓) 羽二重(三百圓) 女帯(三百圓) 紋織物(三百圓) 甲斐絹(三百圓) 平絹(二百圓) 男帯(百圓) 産地——京都、滋賀、群馬、福井、

#### 絹綿交織

女帯(五百圓) 二子(五百圓) 紋織(一百圓) 縮緬(七十圓) 男帯(五十圓) 産地——愛知、岐阜、栃木、群馬、京都、

#### 木綿織

産額——五千一百三十三萬圓、白木綿(一千三百万圓) 綿ネル(一千圓) 縞(八百圓) 紵(六百圓) 色木綿(三百圓) 縮(二百圓) 蚊張地(四十五圓) 男帯(四十圓) 産地——愛知、和歌山、埼玉、福岡、京都、岡山、鹿兒島、沖縄、

(業工) 業

日本

麻布 産額 二百三十萬圓、  
蚊帳地 (六十五萬圓) 生麻布 (四十五萬圓) 上布 (廿二萬圓)  
産地 北海道、廣島、大坂、滋賀、新潟、鹿兒島、

その他織物 五百萬圓、  
産出總額 七百萬圓、

陶磁器

愛知 (二百萬圓) 岐阜 (九十萬圓) 京都 (七十萬圓) 佐賀 (六十五萬圓) 東京 (六萬圓)  
神奈川 (四萬圓) 石川 (三萬圓) 兵庫 (二萬圓) 愛媛 (二萬圓) 島根 (一萬六千圓)

漆器

日本の特有物 産出總額 五百三十七萬圓、  
和歌山 (八十二萬圓) 石川 (六十九萬圓) 静岡 (五十四萬圓) 京都 (卅九萬圓) 福島 (卅三萬圓) 長野 (二十九萬圓) 大坂 (二十四萬圓) 愛知 (廿一萬圓) 神奈川 (十八萬圓) 福井 (十五萬圓)

産出總額 一千二百四十一萬圓、

紙

日本紙 高知 (二百卅萬圓) 岐阜 (百七萬圓) 愛媛 (九十八萬圓) 静岡 (八萬圓) 東京 (八十萬圓) 山口 (六十萬圓) 福島 (四十萬圓) 福井 (三十二萬圓) 佐賀 (三十萬圓) 香川 (三十萬圓)  
産出總額 一億一千二百〇六萬ポンド、  
富士製紙會社、王子製紙會社、東京板紙會社、阿部製紙會社、三菱製紙會社、四日市製紙會社、

西洋紙

酒

日本酒 産出總額 四百四萬石、  
兵庫 (五十三萬石) 福岡 (廿五萬石) 京都 (十六萬石) 新潟 (十五萬石) 廣島 (十五萬石) 愛知 (十三萬石) 山口 (十三萬石) 長野 (十三萬石) 愛媛 (十二萬石) 岡山 (十二萬石)  
惠比須ビール (産額日本第一) 札幌ビール、朝日ビール、麒麟ビール、東京ビール、

マッチ

産出總額 九百八十七萬圓、  
兵庫 (六百五十萬圓) 大坂 (百七十萬圓) 愛知 (七十七萬圓) 香川 (十八萬圓)

壘表類

壘表 總産出額 二百二十四萬圓、  
大分、廣島、岡山、福岡、  
花筵 總産出額 四百十三萬圓、  
岡山 (大部分)、廣島、福岡、 輸出品、

鐵工業

鐵の原料に乏しきを遺憾とす、  
造船業 如何なる大軍艦をも造り得るに至る、  
鐵工所 砲兵工廠、東京、大坂、赤羽橋、  
八幡製鐵所、横須賀、吳、長崎造船所、

○小學地理四

發達

必要——有無相通し、需要供給の媒介——富國の一大原因。  
 發達——分業の發達——生産品の増加、船舶、航海術、海員。  
 商業上の智識の進歩——修好、通商條約の訂結。

イギリス

輸出 三十七億一千萬圓——人口一に付七十圓、  
 主要品——木綿、毛織物、鐵器、器械、石炭、  
 輸入 五十五億一千萬圓——人口一に付百二十二圓  
 主要品——食料品、棉花、羊毛、粗製砂糖、  
 合計 九十二億二千五百萬圓——人口一に付百二十二圓  
 商船 一萬四千四百隻——一千六萬八千噸。

ドイツ

輸出 二十三億六百萬圓、  
 主要品——砂糖、石炭、諸織物、  
 輸入 二十八億八千三百萬圓、  
 主要品——工業原料——棉花、羊毛、生糸、  
 合計 五十一億八千九百萬圓、  
 商船 四千一百五十隻——二百三十二萬二千噸

各國の貿易

フランス

輸出 三十八億二千五百萬圓、  
 主要品——絹布、葡萄酒、小間物、陶器、  
 輸入 三十八億九千六百萬圓、  
 主要品——穀物、羊毛、生糸、棉花、  
 合計 七十六億九千八百萬圓、  
 商船 約一千隻——九十萬噸、

オランダ

輸出 十六億二千五百八十萬圓、  
 主要品——穀物、鐵、織物、銅、砂糖、  
 輸入 十八億九千八百三十萬圓、  
 主要品——輸出品に同じ、國內にて精製するなり  
 合計 三十五億二千四百萬圓、  
 商船 六百九十隻——四十萬五千噸、

ベルギー

輸出 八億四千四百萬圓、  
 石炭、亞麻、毛糸、羊毛、金剛石細工、硝子器、  
 輸入 十億六千三百萬圓、  
 小麥、羊毛、木材、亞麻、礦石、油、  
 合計 十九億七百萬圓、  
 商船 七十隻——十萬三千噸、

商

業

アメリカ合衆國

輸出	二十八億四千萬圓
主要品	綿糸、食品、麥粉、鐵、礦油、銅、棉花
輸入	二十億五千萬圓
主要品	砂糖、皮革、化學品、珈琲、生糸、木綿、ゴム
合計	四十八億九千萬圓
商船	六百二十萬噸

不振なりし原因

- 一、商人の地位を賤みし惡弊、
- 二、徳川時代に於ける鎖困の方針、

貿易額

輸出額	三億一千九百二十六萬圓
輸入額	三億七千一百二十九萬圓
合計	六億九千〇五十五萬圓(三十七年)

商船

汽船	千五百七十隻	六十六萬二千噸
帆船	三千九百三十隻	三十二萬七千噸
和船	一萬九千五百隻	二百三十六萬四千噸
合計	二萬四千五百隻	三百卅五萬三千噸

主要

貿易品

輸出品	生絲(七千五百萬圓) 綿絲(三千萬圓) 羽二重(二千八百萬圓) 石炭(千九百萬圓) 銅(一千五百萬圓) 茶(一千三百萬圓) 燐寸(八百萬圓) 屑絲(五百萬圓) 米(五百萬圓) 花筵(五百萬圓) 麥稈真田(四百萬圓) 樟腦(四百萬圓) 陶器(三百萬圓) 絹 手巾(三百萬圓) 金巾、錫、卷煙草、熨斗絲(以上二百萬圓) 雜綿布、洋傘、柳真田、魚油、木蠟、天竺木綿、甲斐絹(以上二百萬圓)
輸入品	棉(七千七百萬圓) 米(六千六百萬圓) 砂糖(二千三百萬圓) 石油(一千八百萬圓) 石炭(一千二百萬圓) 羊毛(一千萬圓) 機械類(一千萬圓) 麥粉(一千萬圓) 豆類(九百萬圓) 鐵板(五百萬圓) 油糟(五百萬圓) 皮類(四百萬圓) 鐵棒(四百萬圓) 雜綿布(四百萬圓) 汽車(三百萬圓) 毛糸(三百萬圓) ブリキ(三百萬圓) 生金布、牛皮、苧麻、鐵、藍、洋紙、釘、綿、毛布、縮緬吳呂羅紗、レール、小麥(以上二百萬圓) 煙草、鐵管、錫、香蠟、雜鐵具、燐酸肥料、アヰリン染料、電線(以上一百萬圓)

各國との  
主要貿易品

國名	日本より輸出	日本へ輸入
清國	綿糸、石炭、燧寸、銅、卷煙、草、綿布、錫、洋傘	棉花、米、羊毛、砂糖、小麥、豆、油、槽、麻
香港	石炭、銅、燧寸、綿糸、錫、麥稈、眞田、羽二重、魚油	砂糖
印度	羽二重、燧寸、樟腦、石炭、銅、洋傘、陶器、煙草	藍、棰、米、砂糖、小麥粉、油、槽、豆、羊毛、麻
イギリス	羽二重、銅、麥稈、眞田、米、絹手巾、樟腦、陶器、屑糸	羊毛、鐵板、汽車、罐類、染料、更紗、綿布、羅紗
ドイツ	銅、樟腦、麥稈、眞田、羽二重、木蠟、米、魚油	砂糖、羊毛、鐵類、染料、藍更紗、羅紗
フランス	生糸、羽二重、屑糸、眞田糸、樟腦、銅、麥稈、眞田絹手巾	アニリン染料、小間物、葡萄酒、靛類、羊毛、羅紗
ロシヤ	生糸、米、石炭、燧寸、花筵、陶器	砂糖、石油、油槽
イタリヤ	生糸、屑糸、眞田糸、羽二重、麥稈、眞田、絹手巾	羅紗、珊瑚
アメリカ合衆國	生糸、茶、羽二重、花筵、樟腦、陶器、麥稈、眞田	棉花、石油、石炭、小麥粉、油槽
オーストリアハンガリー	米、銅、屑糸、眞田糸、麥稈、眞田	砂糖、羅紗
フィリピン	米、石炭、木蠟、綿布、燧寸、絹手巾、陶器	砂糖、麻、煙草

開港場

横濱、神戸、大坂、長崎、新潟、夷、函館、清水、武豊、四日市、魚崎、下關、門司、博多、若松、唐津、口ノ津、三角、嚴原、佐須奈、鹿見、那覇、濱田、境宮津、敦賀、七尾、伏木、小樽、釧路、室蘭

條約國

清、シヤム、イギリス、フランス、ドイツ、ロシヤ、オトストリヤ、ハンガリー、ギリシヤ、イタリヤ、イスパニヤ、ポルトガル、スイス、ベルギー、オランダ、デンマルク、スエーデン、ノルウェー、コンゴ、アメリカ合衆國、メキシコ、ペルー、ブラジル、アルゼンチン

駐劄官——大使、公使、領事  
 外交事務  
 貿易事務  
 居留民保護

機關

運搬を主とするもの——汽車、汽船、電氣車  
通信を主とするもの——郵便、電信、電話

文明の一大要素。

鐵道の發達

機關車の發明——イギリス人トリヴェシク氏(百年前)  
スチーブンソン氏の成功——リバプール、マンチェスター  
間に運轉したるを始めとす(七十八年前)。

最も發達したる地方

ヨーロッパの各國  
アメリカ合衆國の東半部

蜘蛛の巣  
の如し

印度線

ロンドン、ドーバー(船に  
て渡り)カレー、バリー、  
リヨン、(アルプス山の  
隧道を越え)トリノ、ブリ  
ンヂス船にて印度に向ふ

東洋線

ロンドン、パリ、ストラ  
ズブルグ、ミュンヘン、ウイ  
ーン、ブダペスト、コンス  
タンチノーブル。

北ヨーロッパ線

ロンドン、クエンボロ(船  
にて渡り)ブリッテンゲン、  
ベルリン、ペテルブルグ。

南北線

トリエスト、ウィーン、ワ  
ルソー、ペテルブルグ。

西南線

パリ、コロロン、ベルリン、  
マドリッド、リスボン

世界の大幹線

一、横斷線——五條。

カナダ太平洋鐵道。  
バンクーバー、ハリファクス間  
二千九百六十六哩、我國人のヨ  
ーロッパに行くものは、この線路  
によるもの多し。

交

鐵道

- 二、北太平洋鐵道。
- 三、合同太平洋鐵道。
- 四、大西太平洋鐵道。
- 五、南太平洋鐵道。

七十四

シベリヤ鐵道

ロシヤのサマラより分岐し、チェリヤビンスク、(ウラル山脈を越え)オムスク、トムスク、イルクツク(バイカル湖を迂回し)チタ、ネルチンスクより東清鐵道となり、ハルビン(ウラジオス口)に達す。長崎より、凡三週間にして、ペテルブルグに達することを得(五千哩)。

線路の最も多き國

最もよく發達したる國  
(面積一方キロメートルに對する鐵道線路の長さを示す)

アメリカ合衆國	二十萬一千八百哩。
ロシヤ	三萬七千二百哩。
ドイツ	三萬三千一百哩。
フランス	二萬七千四百哩。
印度	二萬五千五百哩。
ハンガリー	二萬二千六百哩。
イギリス	二萬二千一百哩。
カナダ	一萬八千一百哩。

ベルギー(二二・五)	イギリス(一・三)
ドイツ(九・九)	スイス(九・七)
オランダ(九・三)	フランス(八・三)
デンマーク(八・一)	イタリア(五・六)
オーストリア、ハンガリー(五・六)	
アメリカ合衆國(四・二)	日本(一・七)

(●はキロメートル單位)



交

我國の鐵道

沿革 最初の鐵道—新橋、橫濱間—卅二哩(明治五年九月十二日開通) 次に東京、神戸間、敦賀に至る支線に着手す。 現今にては、官設、私設共に大に發達して、樞要の地點には、殆んど達せざる所なし。然れども、西洋各國に比しては、未だ大に劣れり。

最も發達したる地方 關東平野地方。大坂平野地方。濃尾平野地方。九州の北部。 最も發達せざる地方 山陰道地方。本洲中部の中央。九州四國の南部。北海道の東部。臺灣。樺太。

主要幹線 東海道線 東京、神戸間。 山陽線 門司、下關間。 九州線 長崎、八代間。 關西線 大坂、名古屋間。 北陸線 大坂、新舞鶴間。 中央線 米原、富山、七尾間。 篠井線 八王子、鹽尻間。 信越線 篠井、名古屋間—工事中。

通 (二の道鐵)

總延長 五千六百六十九哩(廿七年末) 四方里半に付一哩の割に走るもの工事中。 鐵道會社 官線、日本、九州、山陽、炭礦、關西、北海道、北越(以上百哩以上)、總武、坂鶴、南海、成田(以上五十哩以上)、會社の數合計四十一。 全國の鐵道は、概政府に買上げらるべし。 速度 一時間 通常十八哩。 最急行廿六哩。 電氣鐵道 東京、横濱間。 東京、伏見間。 大坂、神戸間。 名古屋市内。 大森、川崎間。 國府津、宮の下、江の島間。

通 (國各。一の船舶)

各國の船舶

一	二	三	四	五	六	七	八
イギリス	アメリカ合衆國	ドイツ	ノルウェー	フランス	イタリヤ	ロシア	イスパニヤ
一一、二五〇	三、四二一	一、九三五	二、二三八	一、三七六	一、二三八	一、三七〇	五七九
一六、五九一、〇〇〇	三、八四九、〇〇〇	三、三七〇、〇〇〇	三、七二八、〇〇〇	一、六九三、〇〇〇	一、二八八、〇〇〇	八四一、〇〇〇	七五五、〇〇〇
七四八	一三八	一四〇	：	一三二	四二	三四	三三

第九位は日本なり。以上七ヶ國の合計とイギリス一國とほとんど等しきに注意せよ。

交

航海業の發達

三百三十八年前オランダ人メルカトル正確なる製圖法を始む  
 二百三十七年前イギリス人ハリソン世界磁石方位の海圖を著す  
 二百七十三年前國人ハリソン經緯度測定器を發明す。  
 二百年前フランス人バベン瀛船を造り出す。  
 百年前アメリカ人フルトン瀛船に大改良を加へ實用に供す。

世界の  
大航路

太平洋 印度洋 大西洋

一、バンクーバー………横濱—上海—香港  
 一、サンフランシスコ—ハワイ  
 二、サンフランシスコ—ハワイ—シドニー。ニュージ  
 ーランド。メルボルン  
 一、長崎—上海—香港—シンガポール—コロンドン  
 アデン—スエズ—これよりベニス、マルセイユ、  
 ロンドン—の各地へ。  
 二、メルボルン—コロンドン—ボースエズ—ヨーロッパ各港  
 シドニー—木曜島—バダビヤ—シンガポール—  
 マドラス—アデン—スエズ—ヨーロッパ各港へ。  
 一、ロンドンを元としてハリファクス間。  
 二、ロンドンを元としてニューヨーク間。  
 三、ロンドンを元として南アメリカの諸港へ。

沿革

我國は、太古より航海術に長じたり。神代の韓國交通、神武天皇の東征などについて見よ。

又商人のシヤム、南洋諸島に至りしこと。倭寇。

不發達に陥りし原因——徳川時代の鎖國主義——大船製造の禁止

四面海の國にありながら、航海業進まず——國民海を恐る。

世界三大漁場の一を持ちながら、水産業の進歩遅々。

今日の如く進歩せるも、尙、貿易品の三分の一は外國船による。

結果

交

主要航路

基點——横濱、神戸を一大基點とし、長崎、大坂これに次ぐ。

内國航路——何れの地へも達せざる所なし。

歐洲線

横濱、神戸、門司、香港、シンガポール、ベナン、コロンボ、ボンベイ、アデン、ポートサイド、マルセイユ、ロンドン、アンベルス（七十日）。

濠洲線

横濱、神戸、門司、長崎、香港、マニラ、木曜島、タウンスピル、ブリスベ、シドニー、メルボルン、アデライ

米國線

横濱、ホノルル、サンフランシスコ（十八日）。

浦港線

一、神戸、馬關、長崎、釜山、元山、ウラジオストック（八日）。

孟買線

二、敦賀、元山、ウラジオストック、横濱、神戸、門司、香港、シンガポール、コロンボ、ボンベイ（三十餘日）。

この他、韓國航路、北清航海、上海航路あり。

通 (本日。二の船舶)

船 舶

汽船——一千五百七十隻——六十六萬二千噸。

帆船——三千九百三十隻——三十二萬七千噸。

和船——一萬九千五百隻——二百卅六萬四千噸。

合計——二萬四千隻——三百卅五萬三千噸。

大商船會社

日本郵船株式會社——七十七隻——二十四萬二千二百噸

大坂商船株式會社——八十一隻——六萬六千五百噸

東洋汽船株式會社——五隻——二萬六千四百噸

○小學地理四

交

郵便

○往時は、各國各自の規則を定め郵便物を交換せり。  
 ○明治七年萬國郵便會議をスイスに開き、聯合條約成立。  
 ○明治八年七月一日より施行、萬國共通の制度を布く。  
 明治四年一月、東京、京都、大坂間に設く。  
 當時、東京より大坂迄七十八時間を要したり。  
 現今は、如何なる山間僻地にも通せざる所なし。  
 郵便制度最よく完備せり。  
 明治十二年より萬國聯合會に入會。

電信

各國の電線延長

オーストラリア	イギリス	ドイツ	フランス	アメリカ合衆國
七、〇〇〇	九、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	四三、〇〇〇
七、〇〇〇	九、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	四三、〇〇〇
七、〇〇〇	九、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	四三、〇〇〇
七、〇〇〇	九、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	四三、〇〇〇

○九十九年前、ドイツのセンメリング電氣通信を試みしに始る。  
 ○後數氏の改良を経て、現今はモールス氏の器械を用ふ。

（中にある電線の延長里數なり）

通 (信電便郵)

我國の電線延長

〔三萬四千六百三十四里（三十五年）〕  
 電信線路百里間にある電線延長四三六里

海底電信

世界各國の所有する線路 線路一三九八條  
 線長一三五萬哩  
 太平洋、大西洋、大洋洲間各地へ通ず。

我國の電話

交換局所在地 東京、大坂、京都、横濱、神戸、名古屋、堺、四日市、桑名、前橋、福岡、東京、横濱、静岡、名古屋、龜崎、半田、四日市、桑名、岐阜、一ノ宮、津、大津、京都、茨城、大坂、堺、伊丹、西ノ宮、池田、神戸、明石、舞子、

對話し得る範圍

普通學講習會著作

尋常高等綴方教科書

尋常科 三學年用 四學年用  
五學年用 六學年用  
高等科 一學年用 二學年用  
定價各拾錢 郵送料各四錢

太郎「綴方ツヅリカタは、なか／＼むつかしいものですが、どうしたらじやうずになれるでせうか？」

次郎「それは、できるだけ、たくさんにつくることと、たくさんによむこととださうです！」

太郎「さうですか、それでは、どんな本をよんだらよいでせう？」

次郎「それは、大阪オホサカの田中タナカ栄堂エイダウから發行ウリダシしてゐる綴方ツヅリカタ教科書ケツクワシヨといふ本ホンが、一ばんよいとこのあひだアヒダ先生センセイがおつやいました！」

太郎「大きにありがたう、それでは、すぐにかひませう!!」

# 高等小學日本歴史表解

一學年用

普通學講習會著作

現代	近世	古代	
		下	中
紀元 自二五二八年 至現 今	紀元 自二二六三年 至二五二七年	紀元 自二二二一年 至二二六二年	紀元 自一九九三年 至二二〇〇年
明治の 御代	徳川 時代	織田豊 臣時代	足利時 代、戰 國時代
	二百六 十五年 間	四十 二年 間	二百廿 八年 間
<p>王政復古。諸外國との交通。諸種の大改革。臺灣征伐。西南の役。憲法發布。議會召集。廿七八年戰役。條約改正。日英同盟。三十七八年の戰役。日韓條約。韓國併合。</p>		<p>織田信長の功業。豊臣秀吉の海内統一。朝鮮征伐。</p>	<p>室町幕府の創立。南北朝分合。室町幕府の衰亡。應仁の亂。東山時代。戰國時代の現出。皇室の御衰微。</p>

○高等歴史 一學年用

室町幕府の

室町幕府の成立

尊氏の時代

戦亂相つぎ、幕府の基礎(キ)未だ固からず。恩賞を重くして人心を收む。將士強大となる。尊氏・直義の不和。幕府の威令(イ)重からず。將士相争ひ、南朝に降るものさへ少からず。

義満の時代

南朝の勢大に衰ふ。賢臣細川頼之の輔佐(ホ)。南北朝の合一。山名・大内等の反亂を誅す。諸將屈服(マク)幕府の基礎(キ)全く固くなる。室町に邸宅(テ)を構ふ。室町幕府といふ。

幕府の組織

管領(リヤウ)政治の總裁(サイ)畠山・細川・斯波の三家。三管領。所司(シヨ)侍所の長官。山名・一色・赤松・京極の四家。四職。この他評定衆(ヒヤウヂウ)引付衆などより、三十六の奉行(ブギ)あり。地方官 關東管領鎌倉にありて、幕府の組織にならふ。九州探題・奥州探題・羽州探題・守護・地頭などあり。

從一位左大臣右近衛大將となり、後、太政大臣となる。

盛時

義満の驕奢

室町の邸宅華美(ビツ)を極む。花の御所とよぶ。北山の別邸(ベツテイ)金閣を建つ。北山殿とよぶ。

上下内外の出入の行列を上皇の御幸(ミユキ)になぞらふ。名分を紊す。明の國に交通して、日本國王の稱をうく。

足利幕府の早く衰へし原因 鎌倉幕府の如く、質素儉約(シツソク)を以て下にのぞまらず。義満の驕奢不法度にすぎたり。

支那との交通 尊氏・義満は支那と通商を開き、貿易の利をもとむ。中國・四國・九州の民、朝鮮・支那の沿岸を侵掠(シンリ)する者多し。明人は倭寇といひて大に恐れ、義満に禁遏(キン)を求め來る。義持明と交通をたつに及び、倭寇はふたゝび盛になれり。

字解

素志(ソシ) 執事(シツジ) 庶政(シヨセイ) 壯麗(サウレイ) 雍髮(ウヘツ) 雅趣(ガシュ) 驕僭(ケウケン) 侵掠(シンリヤク) 不逞(フテイ) 倭寇(ワコウ) 禁遏(キンカツ) 所謂(イハユル) 基礎(キソ) 干戈(カンカ) 輔佐(ホサ) 託(タク) 現出(ゲンシュツ) 侍所(サモロヒドコロ) 所司(シヨシ) 評定衆(ヒヤウヂウ) 分掌(ブンシャウ) 奢侈(シヤシ) 旣(ケ) 結構(ケツコウ)

○高等歴史 一二年用

關東管

關東管領家

鎌倉管領ともいふ關東地方を鎮むる重要なる役なり。義詮の弟基氏を祖とし、其子孫相つぎ、上杉氏之をたすく。幕府と次第に疎遠となる〔管領を公方〕とよぶに至る。

足利將軍二尊氏・義詮・義滿・義持・義量・義教相つぐ。鎌倉の持氏將軍たらんことを望む―義持許さず。

永享の亂

持氏の不平

ことごとくに幕府に反抗（ハン）す。上杉憲實諫むれどもきかず。

持氏滅ぶ

持氏かへつて憲實を殺さんとす。將軍義教、憲實に命じて持氏を攻めしむ。持氏自殺（ツサ）し、鎌倉の實權上杉氏に歸す。

持氏の子成氏を鎌倉の主とす二上杉氏の計ひ。上杉憲忠（憲實の子）執事となる。成氏は、上杉氏を父の仇（ア）なりと考ふ。

領

鎌倉公方  
と上杉氏  
との争ひ

古河公方

近臣にも永享の亂に討たれし人の子孫多し。成氏つひに憲忠を殺す。東國大に亂る。憲房成氏を攻む二成氏下總の古河に走る。これより鎌倉の勢力（ヨクリ）大におとろふ。

堀越公方

上杉氏の勢力は、古河公方に及ばず。政知（將軍義政の弟）を幕府より迎へて立つ。伊豆の堀越に居り、古河公方に對抗（コウイ）す。

兩上杉氏

上杉氏（山ノ内家二憲房）相争ひ、共に衰ふ。北條早雲起りて、兩家とも滅さる。

字解

統轄トウカツ 疎くウツ 還俗ゲンブク 遺子ヰシ 奔りハン 對抗タイコウ 扶植フシヨク 反旗ハンキ 翻しヒルガヘ 事情ジヤウキョウ 依然イゼン 血縁ケツエン 繼嗣ケイシ 豈アニ 反抗ハンコウ 奏請ソウセイ 勢窮セイキョウ

○高等歴史 二學年用



# 室町幕府の

幕府の衰微

義満の時を隆盛(セイウ)の極とし、義持の時より衰へ始む。

義教の時代

持氏を滅して幕府の威をしめす。強臣を除かんとし赤松満祐に殺さる。

義政

幼弱にて立ち、榮華になれ、政治をかへりみず。失政(セツ)多く、應仁の大亂を起す。

一幕府の威權おとろへ、諸將相争ふ。

原因

二義政の失政

榮華にふけり、政治をかへりみず。臣下の争ひを鎮むることあたはず。

三相續争ひ

將軍家(義政の弟)と義尚(義政の子)。管領家(斯波家)にも畠山家にもあり。細川勝元と山名宗全。

四權力争ひ

相續争を利用し、兩派に分る。

應仁の亂

戦争

東軍(勝元)義視を奉ず。西軍(宗全)義尚を奉ず。

諸將また東西に分屬す。

應仁元年(四百四十年前)より十一年間にわたる。宗全・勝元相ついで病死。兩軍次第に解散(サイ)す。

# 衰亡

幕府の末路

結果

幕府の威權全く地におちて、命令少しも行はれず。京都市中の荒廢(ハヤツ)皇室の御衰微(ゴス)、公卿の離散。諸將ますく強大となり、つひに戰國時代を生ず。

義政(銀閣)を造り、風流を事とし、宴樂(エン)にのみふける。義尚(意)を政治に用ひしが、早く死して志をはたさず。

政權下に

細川政元獨り權を擅にし、將軍を擁立(ヨウ)す。次で家臣三好氏の手につり、後三好の家臣松永久

滅亡

秀勢をふるひ、將軍義輝を害す。義昭(信長)による。義昭、信長の助けにより十五代將軍となる。

後、信長の威名を忌み、之を除かんとし追はる。足利幕府名實共に滅ぶ。十五代二百四十年間。

# 字解

晩年(バンネン) 終りから

衰運(スヰウン) 衰へる運

跋扈(ハツコ) 横柄

衰微(スヰビ) 衰へる

家督(カトク) 家柄

相續(サウソク) 相ついで

闖(セム) 突如

諷(フウ) 諷刺

繼嗣(ケイシ) 継承

紛議(ブンギ) 議論

黨與(タウヨ) 党派

馳上(ハセノボ) 上り

疲弊(ヒヘイ) 疲弊

窮乏(キウパフ) 窮乏

擁立(ヨウリツ) 擁立

虛名(キヨメイ) 虚名

掌握(シヨウヤク) 掌握

順次(ジュンジ) 順次

徒弟(イトコ) 徒弟

○高等歴史 二學年用

# 室町時代の文・物・京

東山時代の美術・工藝

美術工藝の進歩

社會の秩序恢復—義満の榮華—文物漸く復興。義政の銀閣閑居(カキヨ)風流を事とす。美術・工藝大に進歩し、東山時代を生ず。

陶器・漆器

義政茶の湯にふけり、その風一般に流行(カウ)す。茶器・書畫(クワ)・骨董(ボウ)など愛玩(アイク)せらる。これがため陶器・漆器の精巧(セイコウ)なるもの出づ。

鎌倉時代に宋・元の法をつとふ。

僧明兆(メイテウ) 義持の時代に出でし名人。

僧雪舟(セツシュウ) 義政の頃明國に遊びて其法をつたふ。

狩野元信(カノモトノブ) 和・漢の長所をとりて、一家の畫風を開き子孫代々名人たり。

佛教と文學

佛教は、鎌倉時代より引つゞき禪宗(ゼン)最も盛なり。

京都にも鎌倉にも名高き五山の建立(リコン)せらるゝあり。僧侶は支那に行きて文學を修め戰亂時代の文學を維持す。

# 都の疲弊

朝廷の御衰微

原因

應仁の亂後、戰國時代となり、諸國より租税を納めず。朝廷・幕府・公卿の領地は、皆群雄に横領せらる。幕府よりは、少しも朝廷の御料を上るゝ能はず。

多くの公卿は、縁(エ)を求めて諸國の豪族(ガク)にたよる。朝廷にては、日常の供御(ク)にすらことかぎ給ふに至る。

宮垣(キウ)は破るゝにまかせ、修理(シウ)せられず。御即位・御葬式(シキウ)の大禮さへ、やういに行はれず。

諸豪族の献金(ケン)により、やうい儀式(ギシ)を行はせらる。織田信長の勤王(キン)御所の修理、御料を上り、やゝ舊觀に復す。

# 字解

秩序稍々恢復 (チツジヨクヤ、クワイフク、フクコウ) 復興 (フクコウ) 閑居 (カンキョ) 盛況 (セイキヤウ) 勿論 (モチロン) 骨董 (コウトウ) 愛玩 (アイク) 流行 (リウカウ) 精巧 (セイコウ) 雪舟 (セツシュウ) 禪宗 (ゼンシウ) 創建 (ケンケン) 在來 (ザイライ) 僧侶 (ソウリョ) 亂離 (ランリ) 維持 (モチ) 割據 (カクキョ) 貢賦 (コウフ) 流寓 (リウグウ) 恒例 (コウレイ) 天壤無窮 (テンジャウムキウ) 動搖 (ドウエウ) 舊觀 (キウケン) 賦課 (フツカ)

○高等歴史 二學年用

戰國時代

應仁の亂後、英雄各地に割據し、互に攻伐(ゴウバツ)を事とす。後には土御門天皇より正親町天皇まで、およそ百年間にわたる。強は弱を併せ、大は小をのみ、鎌倉以來の舊家大抵衰しす。

古河・堀越兩公方||爭亂三十餘年の久しきにわたる。

關東地方

北條氏 早雲 堀越家の亂れたるに乗じて之を滅す。ついで小田原城を取りて根據地(ゴンキ)とす。

氏綱・氏康皆勇武、つひに關東の大半を征服す。

奥羽地方

南部・秋田・伊達の諸氏ありて、伊達氏の勢もつとも強し。東北に偏在(ヘンザイ)せる故、中央の大勢に影響(エイキ)少し。

今川氏 義元に至り駿河・遠江・三河を従へ、勢力強大なり。桶狭間(ツクサカハ)の戰||信長に斬られてより遂に滅ぶ。

信玄に至り甲斐・信濃・駿河を併す。

川中島の戰||謙信との戰、勝敗つひに決せず。

武田氏 將軍を擁して號令(ガウ)せんとし、京都に上らんとす。織田・徳川の軍を三方原に破り、翌年病死す。

戰

中部地方

勝頼||織田・徳川の軍と長篠に戦ひて破れ、勢衰ふ。

謙信に至りて越後を従へ、上杉氏をつぐ。

上杉氏 關東を恢復(カクワイ)せんとして、しばしば北條氏と戦ふ。武田信玄と信濃を争ひ、川中島に戦ふ。

京都に上りて事をなさんとして病にたふる。景勝家をつぐ、之より進取(シン)の勢を失ふ。

朝倉氏||義景に至り自立し、越前を領す。

一向一揆(イツキウ) || 一向宗信徒の一揆、加賀一國を占領す。

畠山氏 || まづ第一に衰ふ。

三好氏 || 主家細川氏に代りて、一時勢力をふるふ。

松永氏 久秀、主家三好氏に代りて、一時勢力をふるふ。將軍義輝を弒し、義榮を立て、權を專にす。

淺井氏 || 近江にあり、主家京極(キョウキョク)に代りて立つ。

北畠氏 || 南朝の遺臣にて代々伊勢にあり、尙勢力を保つ。

赤松・山名の二氏 || 東部にありしが、早く衰ふ。

國

近畿地方

中國地方

尼子氏

經久ツネヒサ〔京極キヤク〕氏の一族にて、出雲におこる。出雲・隱岐・伯耆・因幡を従ふ。晴久ハルヒサの代に至りて、毛利氏のために滅さる。

大内氏

義弘ヨシヒロ〔周防・長門・石見・豊前を領す。〕義興ヨシキヨ〔勢強大となり、領地を東方に廣む。〕義隆ヨシタカ〔大に驕奢シヤウにふける。〕家臣陶晴賢タウセイケン〔ルカタ〕のために害せらる。

毛利氏

元就モトナリ〔主家の仇晴賢を嚴島に滅す。〕元就モトナリつひに大内氏に代り、尼子氏をも滅す。輝元テルモト〔元就の孫〕、領地十餘國に及ぶ。

宇喜多氏ウキダ〔播磨・備前を領し、一方に雄視す。〕

細川氏

管領家の一族、淡路・阿波・讃岐を領す。家臣三好氏のために權をうばはる。

三好氏

長慶チヤウケイ〔臣下松永久秀のために害せらる。〕後、長曾我部氏に併せらる。

四國地方

長曾我部氏チヤウソウカベ〔元親モトノカ〕土佐より起り、四國の大部分を領す。

龍造寺氏リウゾウジ〔隆信リウジン〕主家少貳セウニ氏に代りて、肥前に起る。筑前を合せ、後島津氏に滅さる。

九州地方

大友氏

義鎮ヨシチン〔豊前・豊後・筑前・筑後を領す。〕毛利・島津の兩氏としばしば兵を交ふ。

島津氏

貴久キキウ〔ヒサ〕に至りて、薩摩・大隅を平定す。義久に至り、つひに九州南部を服す。勢力もつとも強く、九州全体を壓アす。

攘奪ジヤウダツ〔ぬすむ〕

寧日ネイジツ〔やすらかなひ〕

弱者ジヤクシャ併合ヘイガフ

一浪士イチラウシ

内訌ナイコウ〔うちご〕

略取リヤクシユ

影響エイキヤウ

桶狭間ツケハサマ

頓トミに

勝敗シヨウハイ

號令ガウレイ

連合軍レンガウケン

宿將シュクシャウ〔とどつてたゝかひになれてゐるたいしやう〕

自立ジリツ

雄視イウシ

内應ナイオウ〔おほそかに〕

偶々クマク

一向宗カウシウ

所領シヨリヤウ

推移スヰイ

遺臣ヰシン〔のこつてゐるびらい〕

對抗タイカウ〔かむ〕

陶晴賢タウセイケン

風靡フウヒ〔おさへりよくで〕

勢力セリリキ壓アツす

字解

○高等歴史 二學年用

### 南蠻人の渡

西洋人の  
東洋渡來

戰時國代、西洋にては航海術大に開け、東洋に來るに至る。  
東洋諸國と交通し、貿易の利益を得んとす。  
コロンブス東洋に至らんとして、偶然(セウ)に亞米  
利加を發見す(紀元二千百五十二年)。

葡萄牙人はじめて亞弗利加の南端をめぐるりて印度  
に達し、つひに東洋航路をひらく。

葡萄牙人は、印度のゴアを根據として東洋經路(ヤクリ)を行ふ。  
次第に其歩を進めて、しばしば支那に來る。

我が國  
へ來る  
〔葡萄牙の商船颶風にあひて種子島に漂着す。  
西洋人渡來の始なり(天文十二年、今より三百六十八年前)〕

葡萄牙人、小銃を島主種子島時堯に傳ふ。  
時堯より島津氏へ上り、島津氏より將軍に獻す。  
その後、又葡萄牙人より、鐵砲・火藥の製法を習ふ。  
鐵砲を  
つたふ  
〔戰國時代なりし故、大に歡迎せらる。〕

### 來

西班牙人の  
來航

コロンブスの亞米利加發見以來、盛に新大陸を經營(エイ)す。  
後、太平洋を横ざりてフィリピン群島に達し、マニラに政廳を  
開きて根據地(ヨチ)とし、つひに我が國にも來航す。

南蠻人・南蠻船  
〔葡萄牙・西班牙の人や船をよぶことば。〕  
いづれも南の方より我國に來るによる。

### その影響

戰術一變し攻守ともに猛烈(ハツ)となる。  
築城も面目を改め、宏大(クワウ)堅固となる。

攻伐 航海術 航術 延長 渡來 發見 偶然 出來事 南端

回航 來航 經路 着手 根據地 範圍を擴め 渡航

颶風 漂着 齋せるもつて 火器 研究 折柄 歡迎

戰術 築城法 攻守 猛烈 政廳 總稱 南蠻人 南蠻船

### 字解

○高等歴史 二學年用

織田信長の

信長の素生

平重盛の子孫、代々斯波氏に仕へ、主家の領地尾張に居る。父信秀に至り勢漸く盛となり、家名あらはる。今川義元を桶狭間に斬り、武名四隣にとゞろく。

京都に入る

美濃の齋藤氏を滅して岐阜(ギ)にうつりすむ。正親町天皇其の武名を聞召し、御料所恢復の勅を下し給ふ。信長大に感激(ガンキ)し、大義によりて天下を平定せんとす。足利義昭を奉じて京都に入り、三好・松永を滅す。

勤王 御所の修理・御料の献上(ケンシ)・伊勢神宮の改築(カイ)・兵士の狼藉(ラキョク)を戒め、近畿やうやく安し。

一 伊勢を従ふ 北畠具教(ハモ)を滅す。

二 近江・越前を従ふ 姉川の戦い徳川家康之を助く。浅井・朝倉(アサ)・六角(カク)など皆滅ぶ。

三 延暦寺を焼く 浅井・朝倉と謀(ハカリ)を通じて信長に抗す。平安朝以來横暴なりし山僧の害を絶つ。

四 義昭を追ふ 信長の威名を忌み之を除かんとせるによる。

四方の経路

功業

本能寺の變

五 一向一揆を討つ 長島・石山の僧兵を平ぐ。  
六 武田氏を滅す 家康と共に、勝頼を天目山に滅す。  
七 四國征伐 子信孝をして準備(ジュ)をなさしむ。  
毛利氏 上杉・武田と共に、義昭を助けて信長を討たんとす。大阪の一向一揆に糧を送る。秀吉まづ中國征伐に向ひ、備中の高松城を圍む。毛利輝元、自ら大兵を率ゐて高松城をすくふ。  
秀吉を助けんため、本能寺に入りて宿す。明智光秀急に反して本能寺をおそふ。信長は本能寺に、子信忠は二城條にて自殺す。

夙にはや

智謀

寡兵

轟き

無雙

感激

叡慮

遠慮

狼籍

疲弊荒廢

舊觀

横暴

上洛

夾撃

糧

漸を以て

遠隔

諸豪族

準備

會々

不意

衆寡

自盡

東征西伐

兇手のため 斃れたん

字解

○高等歴史 二學年用

# 豊臣秀吉の内海

信長の遺業  
秀吉に歸す

山崎合戦 〔秀吉、急に毛利氏と和して軍をかへす。光秀と山崎に戦ふ。一戦にして光秀を滅す。〕

安土城會議 〔秀信を立て、遺領を信雄・信孝以下諸將に分つ〕

賤ガ岳の戦 〔信孝・勝家等、秀吉を除かんとし、賤ガ岳に戦ふ。信孝は信雄に殺され、勝家は越前に滅ぶ。信長の遺業は、自ら秀吉の手に歸す。〕

築達 〔大に大阪城を修築（チク）してこれにうつる。從一位關白となり、つひに太政大臣に進む。〕

全國平定

四國・九州平定 〔長曾我部・島津みな降参（カシ）す。〕

北陸平定 〔佐々成政を攻めて降し、上杉景勝も亦來り服す。〕

關東平定 〔北條氏政を滅し、關東六ヶ國を家康に與ふ。〕

奥羽平定 〔伊達政宗、蝦夷の松前氏皆來り降る。〕

聚樂第行幸

〔京都に聚樂第（ジュラク）を營み、後陽成天皇の行幸を請ふ。人々盛なる威儀（キイ）を拜して感泣（キナ）す。諸大名に、天皇を尊び、關白の命に従ふことを誓はしむ。〕

# 平定

政治

五奉行 〔諸政を分掌す。前田玄以（ゲンイ）・石田三成・淺野長政・増田長盛・島津重豪（シメノ）〕

京都市街を修め、田制を整へ、租税の率を定め、貨幣の制を立つ。

原因

〔かつて、大に我が國威を海外に、かかやさんとの大志あり。書をアイリヒン・臺灣に送りて服従を促し、印度に及ばんとす。朝鮮をして我が意を明國に傳へしめんとす、朝鮮應ぜず。〕

朝鮮征伐

第一回

〔文祿元年（紀元二二五二）出兵、總大將宇喜多秀家、練軍十三萬。我が軍しきりに勝ち、明兵をも破る。明より和を請ふ。〕

第二回

〔和議條約のまぢがひあり、明の詐謀（サボウ）なるを知る。小早川秀秋を總大將として再征の軍を出す。秀吉病死（シメイ）により、外征の諸將士ことごとく引上ぐ。遺命（シメイ）により、我が武威をかかやがせしこと頗る大なり。十分に功を奏せざりしも、我が武威をかかやがせしこと頗る大なり。〕

# 字解

持重（チモウ） 持重（チモウ） 持重（チモウ） 持重（チモウ） 持重（チモウ） 持重（チモウ） 持重（チモウ） 持重（チモウ） 持重（チモウ） 持重（チモウ）

完成（クワン） 完成（クワン） 完成（クワン） 完成（クワン） 完成（クワン） 完成（クワン） 完成（クワン） 完成（クワン） 完成（クワン） 完成（クワン）

尊嚴（ソウケン） 尊嚴（ソウケン） 尊嚴（ソウケン） 尊嚴（ソウケン） 尊嚴（ソウケン） 尊嚴（ソウケン） 尊嚴（ソウケン） 尊嚴（ソウケン） 尊嚴（ソウケン） 尊嚴（ソウケン）

援兵（エンペイ） 援兵（エンペイ） 援兵（エンペイ） 援兵（エンペイ） 援兵（エンペイ） 援兵（エンペイ） 援兵（エンペイ） 援兵（エンペイ） 援兵（エンペイ） 援兵（エンペイ）

講和（カウワ） 講和（カウワ） 講和（カウワ） 講和（カウワ） 講和（カウワ） 講和（カウワ） 講和（カウワ） 講和（カウワ） 講和（カウワ） 講和（カウワ）

詐謀（サボウ） 詐謀（サボウ） 詐謀（サボウ） 詐謀（サボウ） 詐謀（サボウ） 詐謀（サボウ） 詐謀（サボウ） 詐謀（サボウ） 詐謀（サボウ） 詐謀（サボウ）

變報（ヘンポウ） 變報（ヘンポウ） 變報（ヘンポウ） 變報（ヘンポウ） 變報（ヘンポウ） 變報（ヘンポウ） 變報（ヘンポウ） 變報（ヘンポウ） 變報（ヘンポウ） 變報（ヘンポウ）

併吞（ヘイタン） 併吞（ヘイタン） 併吞（ヘイタン） 併吞（ヘイタン） 併吞（ヘイタン） 併吞（ヘイタン） 併吞（ヘイタン） 併吞（ヘイタン） 併吞（ヘイタン） 併吞（ヘイタン）

進撃（シンゲキ） 進撃（シンゲキ） 進撃（シンゲキ） 進撃（シンゲキ） 進撃（シンゲキ） 進撃（シンゲキ） 進撃（シンゲキ） 進撃（シンゲキ） 進撃（シンゲキ） 進撃（シンゲキ）

假借（カシヤク） 假借（カシヤク） 假借（カシヤク） 假借（カシヤク） 假借（カシヤク） 假借（カシヤク） 假借（カシヤク） 假借（カシヤク） 假借（カシヤク） 假借（カシヤク）

聚樂第（ジュラクダイ） 聚樂第（ジュラクダイ） 聚樂第（ジュラクダイ） 聚樂第（ジュラクダイ） 聚樂第（ジュラクダイ） 聚樂第（ジュラクダイ） 聚樂第（ジュラクダイ） 聚樂第（ジュラクダイ） 聚樂第（ジュラクダイ） 聚樂第（ジュラクダイ）

供奉（クワン） 供奉（クワン） 供奉（クワン） 供奉（クワン） 供奉（クワン） 供奉（クワン） 供奉（クワン） 供奉（クワン） 供奉（クワン） 供奉（クワン）

指揮（シキ） 指揮（シキ） 指揮（シキ） 指揮（シキ） 指揮（シキ） 指揮（シキ） 指揮（シキ） 指揮（シキ） 指揮（シキ） 指揮（シキ）

先鋒（センポウ） 先鋒（センポウ） 先鋒（センポウ） 先鋒（センポウ） 先鋒（センポウ） 先鋒（センポウ） 先鋒（センポウ） 先鋒（センポウ） 先鋒（センポウ） 先鋒（センポウ）

奮闘（フントウ） 奮闘（フントウ） 奮闘（フントウ） 奮闘（フントウ） 奮闘（フントウ） 奮闘（フントウ） 奮闘（フントウ） 奮闘（フントウ） 奮闘（フントウ） 奮闘（フントウ）

○高等歴史 二學年用

# 徳川家康の

家康の興起

信長時代

代々三河に居り、家康に至り遠江をも領す。信長を助けて武田氏を滅し、駿河を得。本能寺の變後、甲斐・信濃を併せ、強大となる。

秀吉時代

信雄を助けて、秀吉の軍を長久手に破る。秀吉より和を求め、家康の武名大にあがる。北條征伐の功により關東を得、江戸城に入る。

家康の威望

秀吉、五奉行の上に五大老をおき、家康その主席（セキ）たり。領土二百五十萬石、官位は内大臣正二位にのぼる。

秀吉の死後

家康Ⅱ伏見にありて政務をつかさどる。利家Ⅱ大阪にありて秀頼を輔佐（サホ）す。

原因

利家死し、家康ひとり實權をにぎり威勢強大。石田三成等、秀頼のために家康を除かんとする。

天下の實權家康に歸す

關が原の戦

戦争

景勝會津によりて抗し、家康これに向ふ。三成、輝元を盟主として大阪に兵を擧ぐ。家康、秀康を止めて景勝に備へ、西に向ふ。東西の兩軍大に關が原に戦ふ。小早川秀秋等東軍に應じ、西軍つひに大敗す。

# 業 覇

江戸幕府を開く

關が原の後始末

西軍諸將の領地を沒收・削減し有功の人に分つ。諸侯配置 外様大名は、多く僻遠（ヘキエン）の地に移す。

征夷大將軍となり幕府を江戸に開く

原因

秀頼大阪城にあり、金穀を多く貯へ、官位も次第にのぼる。大名中秀吉の恩を思ひ、心を秀頼にやすめるもの多し。家康常に之を憚り、いかにして後患（コウクワン）をたゞんとす。

冬の役

鐘銘の事より、家康の處置を怒り、大阪方より兵をあぐ。大阪方の諸將奮戦（フンセン）して、しばしば東軍をやぶる。家康城の容易に陥らざるを見て、一旦和議を講ず。

夏の役

東軍約にたがひて内堀まで埋め、大阪方怒りて兵をあぐ。要害撤去（テツキョ）せられし故、城容易に陥る。秀頼以下自殺し、豊臣氏は三十餘年間にして滅ぶ。

# 字 解

豪族（ガウゾク） 僻在（ヘキザイ） 規模（キボ） 狹隘（ケンアイ） 擴張（クワク） 繁榮（ハンエイ） 趣（オモム） 遺旨（イシ） 專斷（センダン）  
 糾合（キウガツ） 豫め（ヨメ） 文吏（ブンリ） 雌雄決戦（シウキウケツセン） 分目（ブンメ） 賞罰（シヤウバツ） 沒收（ボツシウ） 削減（サクゲン） 轉封（テンホウ）  
 親藩（シンバン） 譜代（フダイ） 配置（ハイチ） 外様（サマ） 僻遠（ヘキエン） 總攬（ソウラン） 後患（コウクワン）  
 葛藤（カクトウ） 解釋（カイシヤク） 撤去（テツキョ） 顧慮（コリヨ）

○高等歴史 一學年用



江戶幕府の組織とそ

組織

諸法律

武家法度 十三ヶ條 諸大名を制する法律。  
公家法度 十七ヶ條 皇室公卿に對する法律。  
三代目家光に至りて整ふ 本多正信、正純の功。

中央政府

一 大老 諸役の首位 しばしばこれを缺く。  
二 老中 五人 政務を掌る。譜伏大名を之に任ず。  
三 若年寄 六人 老中を助け、旗本の諸士を管す。  
四 三奉行 寺社奉行・勘定奉行・町奉行。裁判も行ふ。

地方官

一 京都所司代 京都の守護、皇室・關西大名の束縛。  
二 城代 大阪。駿府。  
三 町奉行 京都。伏見。大阪。駿府。奈良。  
四 奉行 長崎。佐渡。堺。山田。日光。浦賀。伏見。  
五 郡代、代官 幕府直轄の地に置く。

一 表面 尊崇 皇居の修理 御料の献上。  
裏面 束縛 人民、大名に關係せしめ奉らず。

二 親王を日光に奉ず (輪王寺の宮と稱す、萬一のときの用意)

策政

政策

する政策

朝廷 後水尾天皇 幕府の専横を怒りて御讓位。  
明正天皇 徳川和子の生み奉りし皇女。

一 親藩、譜代大名を要地におく 外様大名を制す。

二 幕府の重職 譜代大名ばかりを用ふ。  
三家 水戸・紀伊・尾張 (家康の時)  
三卿 田安家 一橋家 (吉宗の時)  
清水家 (家重の時)

三 親藩の配置

四 武家法度の勵行 領地の沒收 一家の斷絶多し。  
江戸に邸宅を置かしむ 妻子の人質。

五 參勤交代 往復の道中に費用を多くつかはしむ。  
諸大名に異心をいだくひまなからしむ。

字解

創始 始め

守成 守るべきことをかた

顧慮 考慮

遵守 守るべきこと

首席 第一

統轄 統率

直隸 直轄

勘定奉行 勘定奉行

分擔 分担

支配 支配

掌握 掌握

束縛 束縛

外戚 外戚

比較的 比較的

藩屏 藩屏

牽制 牽制

敬重 敬重

三卿 三卿

勵行 勵行

斷絶 斷絶

隔年 隔年

人質 人質

制馭 制馭

中央集權 中央集權

制度 制度

與りて 與りて

○高等歴史 一學年用

### 海外諸國

幕府の  
開國政策

歐羅巴

朝鮮

支那

秀吉、朝鮮征伐の後、交通中絶す。  
家康、對馬の宗氏をして交通をはからしむ。  
朝鮮の使節、將軍の代がはりごとに慶賀に来る。  
明との修好はならざりしも、商船は長崎に来る。  
明亡びて清起る。商船しばしば來航す。

家康以前

葡萄牙の商船、平戸に来る。  
西班牙の商船、平戸に来る。

秀吉、外交を禁せしも、通商を許す。

家康時代

蘭人(ジョン)ヤン、ヨーステンを江戸に  
英人(ジェイ)ウイリヤム、アダムス止む。  
蘭人・英人に通商の許可を與ふ。  
蘭人・英人・南蠻人と商業上の競争をなし  
遂に彼等を壓倒(アツ)して、獨り貿易の利  
を占む。

### 通交の

個人の交通

亞米利加、墨西哥に使をやる(日本船の太平洋を横  
國民進取足利氏以來の倭寇、いまだ、あとをたしす。  
の氣象秀吉朱印船の制を定む。一層の大進歩。  
江戸幕府の初に至りては、朱印船の數いよく多し

諸大名の交通

九州の大名(大村、有馬、大友)の使者、印度洋、亞弗  
利加の南端を経て、羅馬(ローマ)に至る。  
伊達政宗、その臣支倉常長を羅馬にやる。  
(太平洋、大西洋をよこぎる、往復に八年かゝる)

海外の日本街

安南・暹羅・呂宋などに日本街あり。  
山田長政、暹羅國に奇功をあらはす。

中絶

隣交

襲職

慶賀

漂着

優遇

許可

許可

### 字解

彼我ヒガ 中絶チュウゼツ 隣交リンカウ 襲職シユウシヨク 慶賀ケイガ 漂着ヘウチャク 優遇ユウユ 許可キョカ  
歡心クワンシン 競争キヤウサウ 壓倒アツタウ 横斷ワウダン 進取的シンシユテキ 敢爲カンイ 滿足マンゾク  
免許狀メンキョウジヤウ 澳門アモイ 角倉カククラ 音物オンモツ 羅馬法王ロウマハフワウ 意氣イキ 功名コウメイ 富貴フウキ 蓋しケダシ  
移住イヂウ 存在ソンザイ 危殆キタイ 參與サンヨ

○高等歴史 一學年用

# 基督教傳來の島原亂

邪蘇教の傳來

天文十八年宣教師フランソアサビエー鹿兒島に來る。島津氏の許可を得て一切支丹宗の始なり。サビエーの布教九州・中國より奥羽まで及ぶ。サビエー歸國、三人の宣教師を我國に送る。

秀吉時代の基督教

信長の保護 安土と京都に南蠻寺を建てしめ、布教を助く九州の諸大名、遠く使節を法王の許にやる。秀吉の禁止 國家統一上の弊害を思つて禁止す。

徳川時代の基督教

家康の禁止 耶蘇教を禁じたるも、開國主義なりし故、宣教師ひそかに來るもの多し。信長を海外に追ふ。家光の嚴禁 改宗せざるものをきびしく罰す。宗門改めを行ふ。島原の亂 耶蘇信者島原の原城に據る一三萬五千人。板倉重昌の征討一賊徒、勢つよし。松平信綱十二萬四千の兵を以て平ぐ。

鎖國方針の確立

(家光時代)

耶蘇教の傳播(パン)を防ぐため。許可船の外、外國に渡航するを禁ず。外國人を追ひ、其の渡來を禁ず。長崎の貿易 和蘭人(オランダ)のみ來航を許す。一ヶ年四五艘以下。金額五萬兩以下。結果 海外の事情に通せず、世界の進歩に後る。國民進取の氣象を失ふ。

基督教

新舊兩派

結局

團體

異教

弘布

宣教師

切支丹宗

習慣

裏面

野心

潜

嚴禁

刑罰

根絶

嚴酷

古城趾

精銳

頑強

抵抗

持久の策

踏繪

鎖國

確立

雄飛

意氣

挫折

○高等歴史 二學年用

# 字解

戰國時代の文學

人々戦争のみを事とし、文學に志すものなし。僧侶(リウ)のみ學問をなし、わづかに命脈(ヤクイ)をつなぐ

家康の奨勵

藤原惺窩(ケイ)を召し、陣中にて書を講せしむ。林道春(ロー山)を登用し、政事上のことを諮問(シモ)す。古書を集めて保存(ホソ)し或は出版(パブリッ)す。

文學興る

中江藤樹(フジ)學徳共に高く、世に近江聖人(アヅマノミヤコト)といふ熊澤蕃山(ハシ)藤樹の門人、博學にて政治の才に富む徳川光圀(マサノブ)大日本史を著はし、國体を明にす。

學者の輩出

綱吉(ツナユキ)の自ら書を講じて群臣にさかしむ。木下順庵(ジュンアン)を登用す。昌平校を湯島にたて、林信篤(シノトク)を大學頭とす。荻生徂徠(ソライ)江戸にあり。伊藤仁齋(ニサイ)子の東涯(トウエ)京都にあり。新井白石(シロシキ)室鳩巢(ムロキウソウ)ともに順庵の門人。門弟多し。

學問の復興と元祿時代

代

元祿時代

元祿時代 東山天皇の御代、將軍綱吉時代(今より二百二十年より前)

太平久しく、武勇すたれ、奢侈(シヤ)・遊惰(ユウダ)の風となる。町人は武骨の風を笑ひ、武士は柔弱の風に習ふ。元祿風 娛樂(ゲラク)淨瑠璃(ジュウリ)芝居(シバ)など盛に行はる。

調度(テウド)の華美(カウビ) 衣服は頗る華美となり、調度も華奢(カウシヤ)男子も白粉(オシロイ)を塗り、眉(メイ)を細くそる

元祿文學 近松門左衛門の淨瑠璃・松尾芭蕉の俳諧(ハイカ)など出づ。美術・工藝の進歩 本阿彌光悦(カノミツタカ)家光時代(カノミツタカ)書・畫・詩繪の名人狩野探幽(カノトウウ)繪畫は海内一と稱せらる尾形光琳(オノノミツハル)繪畫・詩繪の名人なり。

登庸(トヨウ) 諮問(シモン) 散逸(サンイツ) 搜索(サウサク) 儒者(ジュシヤ) 施設(シセツ) 普及(フキフ) 輩出(ハイシュツ) 編纂(ヘンサン) 特異(トクイ)

鼓舞(コブ) 端を啓く(タン) 諸有司(シヨウシ) 靡然(ヒビン) 大學頭(ダイガクノカミ) 教授(ケウジュ) 私塾(シジュク) 淨瑠璃(ジュウリ)

芝居(シバ) 娛樂(ゲラク) 調度(テウド) 特質(トクシツ) 俳諧(ハイカ) 詩繪(シエ) 繪畫(ケウガ)

○高等歴史 二學年用

字解

江戸幕府の興・寛政

幕政の不  
振

家綱  
綱吉

〔保科正之・酒井忠勝・松平信綱・阿部忠秋等の老臣相ついで死せし後は、酒井忠清權を專にし、紀綱(ウキカ)や、弛む。〕

〔大老堀田正俊(トシサ)の輔佐にて、一時善政多し。生類憐の令柳澤吉保の寵用・悪貨幣を鑄を等失政あり。〕

家宣

〔柳澤吉保を斥け、新井白石を登用して幣政を改む。白石の改革(カキカ) 〔四親王家を定む。朝鮮の使待遇法を改む。貿易の額を定む。悪貨幣を鑄なほす。〕〕

幕府の中興

吉宗

〔家康の曾孫一紀伊家より入りて八代將軍となる。政治の方針 〔實用を主とし、奢侈・柔弱の風を斥く。〕 〔質素・儉約を守る。武藝を重んじ、遊惰を戒む。〕 〔人材を登用す。德行を賞す。法律百ヶ條を定む。〕 〔財政を整ふ。風俗を矯正(セウ)す。産業奨勵。〕〕

幕政の  
紊る

〔十代家治、田沼意次(オキ)を老中とし、子意知(トモキ)を若年寄とす。田沼父子の専横、賄賂(ロウ)公行、幕政紊れ、且天災地變多し。意知は殺され、意次は水野忠邦のために斥けらる。〕

と天保の改革

寛政の治

家齊(ナリ)十一代將軍となる 〔松平定信を登用す。〕

〔定信の節儉を主とし武事を勵ます、風俗矯正。海防の注意。治蹟 〔學術の奨勵 〔柴野栗山を用ひ、官學の主義を定む。〕 〔尾藤二洲・古賀精里等を登用す。〕〕

幕府衰亡の兆 〔家齊の在職五十餘年 〔徳川氏太平の極。〕 〔定信の退職 〔人心柔弱、驕奢の風生ず。〕〕

天保の改革

〔家慶、十二代將軍となる、水野忠邦の登用。〕 〔忠邦、銳意改革を計る 〔享保・寛政の治を回復せんとす。〕 〔改革あまり急激(ダキ)なりしたため、人の怨を受けて退く。〕〕

字解

鞏固(キョウコ) 保科正之(ホシナマサユキ) 踵(ツ) 紀綱(キカウ) 弛(ユル) 極端(キョクタン) 側用人(ソバヨウニン) 籠用(チヨウウヨウ) 施政(シセイ) 改鑄(カイチウ) 姪(ナヒ) 顧問(コモン) 弊政(ヘイセイ) 英邁(エイマイ) 模範(モハン) 普及(フキフ) 増殖(ゾウシヨク) 賄賂(ロウロク) 飢饉(キケン) 怨聲(オンセイ) 鋭意(エイイ) 振興(シンコウ) 標準(ヘウジュン) 治蹟(チセキ) 登庸(トヨウ) 退隱(タイイン) 憤慨(フンガイ) 施設(シセツ) 急劇(キツゲキ)

○高等歴史 一二年用

# 尊王論と國學

國民武家政治に馴る

〔鎌倉以來の武家政治久しきに馴る。國体を忘れ、武家政治を怪(アヤ)むものなきに至る。〕

學問盛になり、國史・國文の研究興りて國体を明にせるによる

尊王論  
率先者

〔越後の人、京都に學を講ず(家重時代)。國体を明にし、尊王・政權恢復(フクイ)を論ず(公卿罰せられ、幕府は式部を追放(ハヒ)す。山縣大貳・藤井右門||幕府捕へて刑(ク)す。〕

寛政の三奇士

〔高山彦九郎||皇室の御衰微(ゴス井ビ)をなげく。蒲生君平||御陵の荒れたるをなげく。林子平||海防の急を論ず。〕

漢學者頼山陽

〔日本外史・日本政記||尊王の意を寓(ク)す。大に世人に愛讀せられ、國史の知識を普及す。〕

古史・古文の研究により、國体を明にし、尊王論を助く。

僧契沖〔將軍綱吉の時代に大阪にあり、古文を研究す。國學勃興の元祖||光圀深く之を景慕(ホイ)す。〕

荷田春滿(ゾマノア)||吉宗時代、門人に加茂真淵(カモノ)あり。

# の勃興

國學の勃興

本居宣長

〔加茂真淵の門人、深く古史・古文に通ず。古事記傳(コジキ)を始とし、著書(ショ)極めし多し。儒學者が内外本末を誤れるを歎き、儒・佛を排す。〕

平田篤胤(ヒラタ) || 神道を主張(シュウチ)し、儒・佛を排斥(ハヒ)す。

塙保己一〔幼より盲となる、博聞強記(ハクブンキョウキ)、大學者となる。群書類從(グンジュリョ)を著す。〕

効果〔我が國体の尊きを知らしめ、大義名分の忽(カセル)にすべからざるを明にし、尊王論に一大刺激(キツク)を與ふ。〕

尊王論の影響 || 王政復古(ワウセイ)の原因となる。

積年疲弊

治亂興廢(チランコウヘイ)のをさまつたときみだれ

變遷(ヘンセン)かはる

編纂(ヘンサン)

特異(トクイ)

抑壓(ヨクアツ)おさへ

魁式微

所以(ユエ)わり

講筵(カウエン)ほんをよんで

追放(ツイハツ)

過激(クワキキ)はげしく

憤慨(フンガイ)

鼓吹(コスイ)つげ

寓(グ)し

明快(メイカウ)

普及(フキキ)

鼓舞(コブ)

刺激(シキキ)おだては

勃興(ボツコウ)

景慕(ケイボ)

存問(ソンモン)たづねる

心醉(シンスイ)をかたむけ

儒佛(ジュブツ)

排斥(ハヒ)セキ

博聞強記(ハクブンキョウキ)

編輯(ヘンシユ)

比類(ヒルイ)

忽(カセル)

○高等歴史 二學年用

# 字解

邦人の睡眠

家光が鎖國の方針を立て、より百五十年の久しきに至る。邦人は海外に出でず、外人は和蘭人・支那人の來るのみ。邦人は、國內の小天地に太平の夢を貪り、外國の事を知らず

露西亞

カムチャツカ半島を經略(ヤクイリ)す(綱吉時代)。千島・北海道邊をうかゞふ(家齊時代)。

外國の接近

英吉利

印度の經營に殆ど全土を征服す(家治時代)。支那と交通繁く、南より我が國に近づき來る。

海防論者林子平

早くより此の形勢を知る。海國兵談などを著し、幕府より罰せらる。

露國船我が漂民(シシ)を北海道に送り來り、貿易を請ふ。幕府は、始めて海防のゆるかせにすべからざるを知る。

沿海の諸侯に命じて、防備(バロ)を嚴にせしむ。

松平定信の巡視(ジユ)に伊豆・相模の沿海を巡視す。

幕府の命により、全國の海岸を測量(ヤウリ)す。

北門の警備

幕府の命により、全國の海岸を測量(ヤウリ)す。

### 外艦の來渡と開

### 港の顛末(其一)

伊能忠敬

十八年間に於て北海道を始とし、殆ど全國に涉る。調査頗る精密にて、本邦地圖の基本となる。

近藤重藏

北海道より擇捉島まで探檢(ケン)す。露人の標柱(チウ)をすて、我國標をたつ。

北邊の調査

間宮林藏

樺太を探檢し、島なることを發見す。つひにシベリヤに渡りて歸る。

露西亞

長崎に入り來りて貿易を請ふに許さず。樺太・北海道に來りて暴行(カウ)をなす。

英吉利

長崎に入り、和蘭人を捕へ去る。長崎奉行、これがために自殺す。

攘夷論

攘夷論起る

尊王論變じて、攘夷論となる。天下大に騒がし。

外國船擊攘令

露西亞・英吉利の、船ますく、近海に出沒す。家齊、外國船擊攘の令を下す(八十六年前)。天保十三年家慶の時、此の令を取消す。

### 世界の趨勢

鎖國の方針を立てし當時とは、大におもむきを異にす。西洋にては汽船の發明ありてより、交通頗る發達す。遠隔(カク)の地も容易に往來し、世界を縮めたる如き趣あり。外國船の東洋に來るもの日に多し。我が國人は外國の事情を知らずして盛に攘夷を叫(ケサ)ぶ。

洋學の禁 || 鎖國の方針を立つると共に、洋書を讀むを禁ず。

洋學の起り || 吉宗、西洋の文物發達せるを知る。切支丹に關係なき洋書を讀むを許す。

### 洋學の興起

#### 蘭學者

青木文藏 — 吉宗の命により長崎にて蘭語を學ぶ。  
前野良澤 (マヘノリ) — 和蘭語の解剖書を翻譯す。  
杉田玄伯 (スギタケ) — 和蘭語法の書を著す。  
大槻玄澤 (オホツキ) — 和蘭語法の書を著す。

西洋の學問・技藝・兵術など、次第に傳はる。世界の大勢に通じ、開港の意見を有する者を生ず。渡邊華山・高野長英開港論を唱へて罪せらる。

## 外艦の來渡と開港

和蘭の忠告 || しばしば開港を勸む — 幕府きかず。

### ペルリの來航

嘉永六年 || 孝明天皇の御時(五十八年前)。船艦四艘を率ゐて浦賀に入り來る。大統領の書を幕府に呈し、和親通商(ワシヤウ)を請ふ。幕府狼狽(ラウ)返答を明年に延期(キエン)して歸らしむ。

### 國論沸騰の端

幕府、獨斷(ダク)にて處置(チヨ)することあたはず。朝廷に奏上し、諸侯に意見を呈出(テイシツ)せしむ。朝廷・諸侯の上下より干涉(セツ)を受くる端を開く。

安政元年、約の如く來りて返答を求む。

幕府已むを得ずして和親條約を結ぶ。

### 和親條約成る

函館・下田の二港を開く(貿易を許さず)。薪水・糧食などの必要品を給す(下田條約)。合衆國の役人を下田に居らしむ。

次で英吉利・露西亞・和蘭とも同様の條約を結ぶ。

## 顛末 (其二)

### 和親條約締結



スハルリ  
來朝

〔安政三年合衆國の總領事(ヤウジ)ハルリス下田に來る。強て將軍に謁見(ケツ)し、世界の太勢を説き、通商を強請(セウ)す。幕府已むを得ずして通商條約の草案(アウ)を議す。〕

條約案 〔下田・函館の外、神奈川・兵庫・長崎・新潟を開港場とす。神奈川(横濱)を開港したる後は下田を閉づ。〕

老中堀田正陸(ヨシ)上京して勅裁(チヨク)を仰ぐ。

京都にも攘夷論盛なり―條約の勅許なし。

通商條約締結

〔家定子なく、その繼嗣の選定(セン)についてやかまし慶喜、年長じて賢明(ケン)なり―頗る人望(ジン)あり。〕

井伊直弼(ナホスゲ)の英斷(エイダン)

直弼を大老とし、内外多事の難局(ナンキョク)に當らしむ。ハルリス、調印(テイイン)をせまることいよく急なり。直弼勅許をまたず斷然(ダンゼン)條約に調印す。次で和蘭・英吉利・佛蘭西にも同様の條約を結ぶ。繼嗣問題―紀伊家より幼少なる家茂を迎ふ。

### 外艦の來渡と開港

### の顛末(其三)

安政の大獄

天下の志士、直弼の專斷を憤(フキ)り、違勅(ウイチ)を責む。

齋昭及び尾張・越前の諸藩主を罰す。

直弼反對者(ハンタイシヤ)を壓服(アツブク)す

志士 〔吉田松陰・橋本左内・頼三樹三郎・鶴飼吉左衛門等十數人を處刑(ケイ)す。〕

連累(レンレイ)の皇族・公卿までも罰す。幕府の衰亡を早からしめし一原因となる。

櫻田門外の變

齋昭を幽す―水戸藩士の怒り、いよく甚し。水戸の浪士、直弼を櫻田門外に殺す。之より幕府の威信(キジン)とみに衰ふ。

### 字解

- 確立(カクリツ) 推移(スヰイ) 騷擾(サウバウ) 機運(キウン) 先見(センケン) 防備(バウビ) 測量(ソクリヤウ) 調査(テウサ) 警備(ケイビ) 探檢(タンケン) 標柱(ヘウチウ)
- 視察(シサツ) 騷擾(サウバウ) 突然(トツゼン) 夷狄(イテキ) 擊攘(ゲキヤウ) 遠隔(エンガク) 無謀(ムボウ) 嚴禁(エンキン) 刻苦(コクク) 勉勵(ベンレイ)
- 解剖(カイバウ) 翻譯(ホンヤク) 持續(チヨク) 鎮壓(チンアツ) 舊慣(キウクワン) 水師提督(スイシテイトク) 獨斷(ドクダン) 締結(テイケツ) 謁見(エツケン)
- 拒絶(キョゼツ) 勅裁(チヨクサイ) 憂慮(ウイリヨ) 繼嗣(ケイシ) 斷然(ダンゼン) 輿望(ヨバウ) 沸騰(フットウ) 連累(レンレイ) 殺害(セツガイ)

○高等歴史 二學年用

# と亡衰の府幕戸江

公武合体コウブガッタイ

井伊直弼殺されて後、安藤信正(ソウ)局に當る。幕府の威信(シン)衰へ、諸侯を制し、天下に號令すること難し。公武合体の論起り、朝廷の尊嚴(ソウ)を假りて事を處せんとす。將軍家茂のために、孝明天皇の御妹の降嫁(カウ)を請ふ。十年以内に攘夷を斷行(ダン)せんことを誓ふ。文久元年十二月、和宮(ミヤ)御降嫁遊ばさる。志士の憤慨(カン)する所となり、信正傷つけらる。

朝權の振興テウケン

島津久光・毛利元徳(モリ)京都に入る。皇威の振興(シン)・幕政の改革(カク)について盡力(ジュウリ)す。朝廷の御威光(ウヰキウ)大に振興(シン)す。

勅使の東下

勅使テウシ大原重徳(シゲ)護衛(ゴエイ)島津久光。將軍の上浴。幕政の改革。攘夷の實行。三事を命せらる。

# 還奉政大(一其)

攘夷の實行

幕政の改革コウセイ徳川慶喜(ヨシノブ)を後見(コウケン)とし、松平慶永(ヨシナガ)を總裁(ソウサイ)とす。

文久三年三月、將軍家茂入京して、攘夷の勅を奉ず。五月十日(文久三年)を攘夷の期日とし、全國に布告(フコ)す。

下關海峽の攘夷

長州藩は攘夷論の大主張者(ダイシュウシャ)なり。期日(キジツ)に至り、合衆國の商船を砲撃(ハウキ)す。和蘭・佛蘭西の軍艦をも砲撃す。佛・英・蘭・米の聯合艦隊と戦ふ。

鹿兒島灣の攘夷

生麥事件(ナマメジケン)島津久光勅使を護衛して東下し、其歸途(キソ)生麥村(ナマメ)にて前驅(ゼン)を犯したる英人ありしを斬る。

英艦、生麥の罪を問はんとして鹿兒島灣に入る。薩摩の兵奮戦(セン)して之を撃退(ゲキ)す。英艦、錨(イカ)をすておきてのがれ去る。

# と亡衰の府幕戸江

蛤御門の戦

攘夷親征の議

長州・鹿兒島の攘夷より攘夷論者の意氣大に揚る。攘夷に事よせ、幕府を倒さんと計るものもあり。長州藩の議により、攘夷親征のことに決す。

朝議一變

薩摩・會津等の溫和論者(シヤワロ)勝を制す。朝議俄に一變し、攘夷論者斥けらる。長州藩の皇居守衛の任を解き藩士の在京を禁ず。三條實美(トキ)以下、攘夷論の七卿長州に走る。朝廷には、攘夷論者一人もなくなる。

蛤御門の戦

長州の家老福原元佃等宛を訴ふと稱して入京す。薩摩・會津の兵、これを撃退(タネ)す。

第一回

幕府諸侯に令して、長州征伐の軍をやる。藩主毛利敬親(チカカ)、元佃等を斬りて罪を謝す。

長州藩士高杉晋作等、恭順黨を壓して幕府に抗す。幕府再征軍を出し、家茂大阪にありて軍を督す。

長州征伐

# 大政奉還(其二)

第二回

諸侯命を奉せざるものあり。幕府の軍常に破る。將軍家茂大阪に斃す。慶喜十五代將軍となる。孝明天皇崩御。今上天皇御即位。

幕府に勅して長州征伐の軍を止めしめらる。

大政奉還

幕府の威信全く地におち、諸侯命を奉せず。内外の事ますます困難(ホン)にて、攘夷論變じて討幕論となる。土佐藩主山内豊信等、大政奉還を慶喜に勸告(コウゴ)す。

慶喜の英斷

時勢を察し、斷然政權奉還を奏請す(慶應三年十月十四日)。幕府廢絶(徳川幕府十五代、二百六十五年間、賴朝幕府を開きしより六百七十六年)

# 字解

公武合体 <small>コウブガツタイ</small>	聯合艦隊 <small>レングワフカンタイ</small>	遺憾 <small>ヰカン</small>	恭順 <small>キヤウジュン</small>	首魁 <small>シユクワイ</small>	擊破 <small>グキハ</small>	精銳 <small>セイエイ</small>	踐祚 <small>センソ</small>	祖業 <small>ソゴウ</small>	創立 <small>ソウリツ</small>
尊嚴 <small>ソウエン</small>	前驅 <small>ゼンク</small>	擊退 <small>グキタイ</small>	前驅 <small>ゼンク</small>	首魁 <small>シユクワイ</small>	覺醒 <small>カクセイ</small>	討滅 <small>タウメツ</small>	温和論 <small>オンワロン</small>	脱走 <small>ダツソウ</small>	彈丸 <small>ダンガン</small>
降嫁 <small>カウカ</small>	尊嚴 <small>ソウエン</small>	擊退 <small>グキタイ</small>	前驅 <small>ゼンク</small>	首魁 <small>シユクワイ</small>	覺醒 <small>カクセイ</small>	討滅 <small>タウメツ</small>	温和論 <small>オンワロン</small>	脱走 <small>ダツソウ</small>	彈丸 <small>ダンガン</small>
窺慮 <small>エイリヨ</small>	尊嚴 <small>ソウエン</small>	擊退 <small>グキタイ</small>	前驅 <small>ゼンク</small>	首魁 <small>シユクワイ</small>	覺醒 <small>カクセイ</small>	討滅 <small>タウメツ</small>	温和論 <small>オンワロン</small>	脱走 <small>ダツソウ</small>	彈丸 <small>ダンガン</small>
憤慨 <small>フンガイ</small>	尊嚴 <small>ソウエン</small>	擊退 <small>グキタイ</small>	前驅 <small>ゼンク</small>	首魁 <small>シユクワイ</small>	覺醒 <small>カクセイ</small>	討滅 <small>タウメツ</small>	温和論 <small>オンワロン</small>	脱走 <small>ダツソウ</small>	彈丸 <small>ダンガン</small>
盡力 <small>ジンリキョク</small>	尊嚴 <small>ソウエン</small>	擊退 <small>グキタイ</small>	前驅 <small>ゼンク</small>	首魁 <small>シユクワイ</small>	覺醒 <small>カクセイ</small>	討滅 <small>タウメツ</small>	温和論 <small>オンワロン</small>	脱走 <small>ダツソウ</small>	彈丸 <small>ダンガン</small>
護衛 <small>ゴエイ</small>	尊嚴 <small>ソウエン</small>	擊退 <small>グキタイ</small>	前驅 <small>ゼンク</small>	首魁 <small>シユクワイ</small>	覺醒 <small>カクセイ</small>	討滅 <small>タウメツ</small>	温和論 <small>オンワロン</small>	脱走 <small>ダツソウ</small>	彈丸 <small>ダンガン</small>

高等歴史 二學年用

# 明治時代の

## 王政復古

慶應三年十二月王政復古の大令發布—諸外國へも通告(コウ)  
 第一回官制改革  
 攝政・關白・征夷大將軍などを廢す。  
 總裁・議定・參與を置かる。  
 藤原氏の專權・武家政治等一千餘年を経て御親政の古に復す。

## 幕臣の憤慨

慶喜、内大臣として京都にあり。  
 領土多く、諸侯の奉ずるもの多し。  
 朝廷、官位・領地を還さしめんとす  
 又、慶喜は少しも新政に與らず。

## 鳥羽・伏見の戦

慶喜、事變の生ずるを恐れ、大阪に退く。  
 幕臣・會津・桑名・二藩等に擁せられ、薩州  
 藩を斥くるを名として京都に向ふ(明治元年正月三日)  
 薩摩・長州二藩の兵、鳥羽・伏見に撃退す。  
 征討大將軍—嘉彰親王(ヨシチカキ)。

## 維新の戦亂

慶喜追討—慶喜のがれて、船に乗じて江戸に走る。  
 東征大總督—熾仁(ヒタル)親王。參謀—西郷隆盛。

# の内治

## 各地の戦争

上野の戦—彰義隊(シヤウギダイ) (舊幕臣等の團體(タン)の反抗。  
 會津の戦—會津藩主松平容保(マスカ)の反抗(カウ)。  
 函館の戦—榎本武揚(エノモト)・大鳥圭介(オホトリ)等の反抗。  
 慶喜、上野の寛永(クワン)寺に退き、恭順の意を表す。  
 江戸城・軍艦・銃砲を收め、慶喜を水戸に幽す。

## 五箇條の御誓文

元年三月、天皇紫宸殿に御し、五箇條の國是(コクゼ)を宣し給ふ  
 明治政治の大方針(オウホウシン)を御決定(ゴケツ)遊ばさる。

御即位—明治元年八月。明治と改元—一世一元の制とせらる。  
 御遷都—江戸を改めて東京とし、帝都の地と定められ、元年十月御遷幸。

## 藩籍奉還

幕府・幕臣の領地は、之を收めて府・縣を置き、知事を命じたり  
 諸侯は元のまゝにて、政府の威令及ばず、不都合(カフ)多し。  
 二年藩主の請をいれ、全國を朝廷に收め、藩主を知藩事とす。

## 廢藩置縣

四年藩を廢して縣を置く。知藩事を華族として東京に移す。  
 三府七十二縣とし、知事を命ず(明治二十二年三府四十三縣に改む)

○高等歴史 一二年用

# 明治時代の内

學制頒布(ハシ) 明治五年に頒布せられ、大中小の學制を立つ。  
 太陽曆を行ふ 五年太陽曆を廢して、太陽曆を用ふ。  
 徴兵令發布(ハツ) 六年發布。全國皆兵の法とし、兵農の區別すたる。  
 風俗の改良 散髮(ハツ)・脱刀(タツ)・禮服の改定等、制度・風俗の改善多し。

第二回の官制改革  
 二官 神祇官(シンギ)・太政官(タウヤウ)。  
 六省 民部・大藏・兵部・刑部・宮内・外務。  
 官吏 大臣・納言(ナゴ)・參議以下を任命(ニン)し給ふ(明治二年)。

七年、副島種臣等、民選議院設立の議を上る。  
 政府は、時機(キジ)尙早しとして採用(ヨウイ)せず。

憲政の端緒  
 大審院を設く 最高の裁判所  
 元老院を置く 立法の府とす  
 地方官會議 民情を遁す  
 八年。

準備  
 地方自治の基礎 府縣會を開く 十二年。  
 市町村會を設く 最下級の自治体。

國會開設の詔 板垣退助等しきりに國會開設を請願す。  
 二十三年を期し國會開設の詔下る(十四年)。

# 治

(其二)

代議制の發達

第三回官制改革  
 内閣總理大臣以下、外務・内務・大藏・陸軍・海軍・司法・文部・農商務・遞信の十大臣。  
 宮内省 政治に關せず、宮中の事を掌る。

憲法發布  
 明治二十二年二月十一日。  
 上下和氣霽々(アハ)の中に發布せらる 世界無比。

帝國議會開かる  
 二十三年十一月、始めて東京に開かる。  
 東洋唯一(ユウヤウ)の立憲國となる。

# 字解

嘉納 顯職(ケンシヨク) 掌握(シャウアク) 擅恣(センシ) 虛位(キヨイ) 萬機(マンキ) 親裁(シンサイ) 依然(イゼン) 辭官(ジクワン)  
 隱謀(インボウ) 恐懼(キヨウウク) 謹慎(キンジン) 舊誼(キウギ) 順逆(ジュンギャク) 紫宸殿(シシンテン) 地祇(チキ) 國是(コクゼ) 躬斯(コフシ) 旨趣(シユシ)  
 經綸(ケイリン) 庶民(シヨミン) 陋習(ロウシヨフ) 振起(シンキ) 未曾有(ミソウウ) 躬斯(コフシ) 旨趣(シユシ)  
 協心努力(ケフシンドリヨク) 吉凶禍福(キツキヨウワフク) 鳳輦(ホウレン) 流涕歡喜(リウテイクワンキ) 因襲(インシヨフ) 旨趣(シユシ)  
 錯綜(サクソウ) 參酌(シンシャク) 準據(ジュンキョ) 騷擾(サウセウ) 輔弼(ホヒツ) 靄々(アイク) 爾後(ニゴ) 旨趣(シユシ)

○高等歴史 二學年用

明治昭代

外交方針の確立

王政復古と共に、外國と和親の議を決し、天下に布告せらる。各國公使を兵庫に會して維新を告げ、且、拜謁(ハイ)を賜ふ。明治三年、公使を英・佛・獨・米に遣して駐劄(サツク)せしむ。大使派遣(ハクケン) 大使||岩倉具視、副使||木戸・大久保・伊藤。歐米巡回||國交を重ね、文物制度を視察す。

征韓論

征韓論者の暴動

佐賀の亂||江藤新平(七年) 熊本の亂||前原一誠(九年) 神風連。西南の役(隆盛等、私學校を建て、多くの壯士を養ふ。十年二月兵を擧げ、九月鹿兒島に滅ぶ。)

修好條約成る

江華島事件||我雲揚艦を砲撃す。黑田清隆の談判||朝鮮の謝罪||條約の締結。

十五年の變

朝鮮兵我公使館を襲ひ七人を殺す。花房義質の談判||朝鮮の謝罪。

外交の(一其)

朝鮮と清國の關係

清國との條約締結

北境の畫定

朝鮮は、徳川將軍の代がはりごとに来聘(ライ)し、又常に清國に好を通じて、其の正朔(サキ)を奉ず。

清國は、常に朝鮮を屬國の如く見る。

我國は獨立國と認めて條約を結び、歐米諸國も之にならふ。

清國は、なほ屬國視するの舉動(キョウ)あり、遂に日清戰役起る。

明治四年使節をやりて修好通商條約を結ぶ。

臺灣事件

我國人しばしば臺灣に漂着(ハワチ)して害せらる。六年副島種臣の談判||清國臺灣を化外の民と答ふ。西郷從道臺灣を征す||清國より異議を申來る。大久保利通の談判||償金五十萬兩を得。

露西亞の東方經路歩を進めて、千島・樺太に侵入(シラ)す。

我が北方經營も次第に進みて、千島・樺太に達す。

兩國人入り交りて、境界(カイ)すこぶる錯雜(サツク)となる。

政府・榎本武揚をして談判せしめ、境界を定む(八年)。

樺太全部を露西亞に與へ、千島全部を我に收む。

○高等歴史

二學年用



# 明治昭代の

三國干涉

露・獨・佛聯合(カシ)し、遼東半島の還附(ツク)を勸告(コウゴ)し來る。我が國は、已を得ず之を清國に還し、三千萬兩を取る。

義和團 露・獨・佛・英、清國にせまり、種々の特權(トク)を得。之がため清國民間に過激なる排外思想を醸成す。

北清事變

聯合軍 三十二年義和團起り、官兵も加りて暴動(ドレ)す。我が軍を中堅とし、各國聯合軍を組織す。

和議成る 三十二年八月北京に入り、公使館を救ふ。償金四億五千萬兩を出し、悪徒を罰す。

日英同盟 清・韓兩國の保全、東洋の平和を目的とす(三十五年一月)。

露國は、居留民保護を名として滿洲を占領す。北清事變終るも兵を撤せず、勢韓國を壓せん。

日露 日英同盟の後、露國は滿洲の撤兵を約して實行せず。益々兵を増し、旅順を固め、盛に戦備を整ふ。

三十七八年 年戰役

我が國は、東洋平和のため、誠意露國に交渉(セフ)す。談判六ヶ月の長きにわたり、露國に誠意なし。

# 外交

(三其)

戦争 我が軍連戦連勝、陸軍は旅順を陥れ、敵を長春以北に追ひ、海軍は敵の東洋艦隊・バルチック艦隊を全滅す。

結果 樺太の南半と關東州の租借權(ツケン)、南滿洲鐵道とを我が國に譲り、韓國に於ける我が優越權(ウエツケン)を認む。

戦後の經營

日英同盟の擴張(チヤウク) 攻守同盟(コウシュ)とす(三十八年八月改正) 樺太廳・關東都督府を置きて、其地方の政治を整ふ。

南滿洲鐵道會社の設立 鐵道・鑛山の經營。佛・露・米と協約を重ね、平和を確保し、親交益々厚し。

韓國併合 統監府を置き、韓國に代りて外交を管す。四十年更に協約を重ね、内政をも指導(シダ)す。

割讓 還附 勸告 特權 壓抑、過激 排外思想(ハクガイシヤウ)を醸成(ジャウセイ)す。

# 字解

確保 要塞 範圍 優越權 承認 克復 擴張 保障 協約 曩に 指導 宿弊 根抵 危懼 淵源 杜絶 受諾 弛張 顯彰

○高等歴史 一學年用



明治四十四年二月十五日印刷  
明治四十四年二月二十日發行

定價金八錢

著作者 普通學講習會

大阪市南區安堂寺橋通四丁目二三四番屋敷

發行者 大塚 宇三郎

大阪市南區心齋橋通安堂寺町南入

發兌元 田中 榮堂

大阪市南區安堂寺橋通二丁目二十六番屋敷

印刷者 山田 元吉



普通學講習會著作

# 尋常高等 八學科表解

尋常科 (前期用) 第五年用 第六年用  
(後期用) 第五年用 第六年用  
高等科 (前期用) 第一年用 第二年用  
(後期用) 第一年用 第二年用  
定價各金拾貳錢 郵送料各四錢

◎八學科表解とは修身、國語(讀方、書方、綴方)、地理、歴史、算術、理科、圖畫、体操をもつとも分りやすく、解しやすき様に表解したものである。◎何の必要があるか……教場で教へて貰つた智識をふとめること、少い時間と少い力とで、しつかりとした智識にするため、復習の便利のために、かならず、なくてはならぬ便利な有益な本である。◎これまで、ありふれた表解類とは、教段進歩したものである。表解のしかたが巧なは勿論殊に、修身、理、歴史、算術には、一課ごとに字解をつけ、又地理には、各府名所舊跡の寫真板を入れ、理科、圖畫、体操にも、多くの圖畫を説明し、もつとも新しい材料でしらべてある。



225



小學校兒童用參考書類



小學地理問答 日本之部全一册 定價拾錢郵稅四錢

小學理科問答 尋常五六年用二册 價各拾錢郵各四錢

小學地理問答 外國之部全一册 定價拾錢郵稅四錢

小學理科問答 高等一二年用二册 價各拾錢郵各四錢

小學地理問答 尋常科用全一册 定價拾錢郵稅四錢

小日本歷史附圖 尋常高等共用一册 價拾五錢郵稅四錢

日本歷史問答 高等科用全壹册 定價拾錢郵稅四錢

尋常綴方教科書 三四五六年用四册 價各拾錢郵各四錢

日本歷史問答 尋常科用全壹册 定價拾錢郵稅四錢

高等綴方教科書 一年二用全二册 價各拾錢郵各四錢

尋常算術問答 五年六年用全二册 價各拾錢郵各四錢

小學珠算書 尋常科用 價各八錢郵各貳錢

高等算術問答 一年二用全二册 價各拾錢郵各四錢

小學珠算書 高等科用 價各八錢郵各貳錢

小學農業問答 高等一二年用二册 價各拾錢郵各四錢

水彩畫手本 附畫法心得全一册 價貳拾錢郵稅四錢

發行元

大阪市南區心齋橋 通安堂寺町南へ入

田中宋榮堂

賣捌所全國 各地書籍店



小學校兒童用參考書類



小學地理問答

日本之部全一册  
定價拾錢郵稅四錢

小學理科問答

尋常五六年用二册  
價各拾錢郵各四錢

